教育・保育施設
認可外保育施設等における

事故防止及び対応マニュアル

～施設編～

新潟市こども未来部幼保支援課

平成２９年　８月　初版
令和　３年　２月　改訂版
令和　３年１０月　一部加筆
令和　５年　４月　一部改訂
令和　６年　４月　一部改訂
令和　７年　６月　一部改訂
令和　８年　８月　一部改訂

～施設編～

目　次

Ⅰ　事故防止のための取組み

事故の発生原因　～事故は、いつ、どこで発生するの？～ ……1
重大事故を予防する～こどもの命を守るために～ ……2
重大事故を予防するチェックポイント
「食う」 ……3
「寝る」 ……5
「水遊び」 ……7
「園外保育」 ……１０

安全計画・危機管理マニュアルの作成 ……１１

事故の発生防止（予防）のための取組み
（１）　事故予防対策 ……１２
（２）　緊急時の対応体制の確認・周知 ……１３
（３）　職員の資質向上 ……１３
（４）　安全教育 ……１４

事故の再発防止のための取組み
（１）　再発防止策の策定 ……１４
（２）　職員等への周知徹底 ……１５

Ⅱ　事故発生時の対応

1　事故発生直後の対応
（１）　事故への対応 ……１６
（２）　重大事故への対応 ……１７
（３）　事故報告方法 ……２１
事故発生時の報告フロー……２３

資料編

こどもの発達の目安と起こりやすい事故 1
施設安全点検表　１ 2
遊具（園内外）安全点検表　２ 4
保育室安全点検表　３ 5
睡眠チェック表（５分チェック）０歳児用 6
睡眠チェック表（10 分チェック）１歳児用 7
睡眠チェック表（10～15 分チェック）２歳児用 8
睡眠チェック表（20 分チェック）３歳以上児用 9
園外保育チェックリスト １０
お散歩園児数確認メモ １１
お散歩行ってきますカード １２
【園外保育】０・１歳児クラス用　事故防止チェックリスト １３
【園外保育】2～5 歳児クラス用　事故防止チェックリスト １４
ヒヤリ・ハットの記録 １７
０歳児クラス用　事故防止チェックリスト １８
１歳児クラス用　事故防止チェックリスト ２０
２歳児クラス用　事故防止チェックリスト ２２
３歳児クラス用　事故防止チェックリスト ２５
４歳児クラス用　事故防止チェックリスト ２８
５歳児クラス用　事故防止チェックリスト ３１
緊急時の役割分担 ３４
救急車の呼び方　１１９番通報 ３５
病院緊急連絡先 ３６
教育・保育施設等事故報告書 Ver.６ ..... ３７
教育・保育施設等事故報告書（自動車への置き去り事故） ３９
事故の経過報告書 ４０
事故状況記録用紙 ４２
危機事象発生状況報告書 ４３

Ⅰ　事故防止のための取組み



事故の発生原因

～事故は、いつ、どこで発生するの？

事故は、いつ、どこでも発生する。こどもたちが安心して遊ぶことができる環境を整えるために、あらゆる要因(危険)について理解する。

こどもの発達に伴う危険

こどもの事故は、その多くが、こどもの発達と密接に関係している。

こどもの発達過程やそれぞれの時期の認知・身体・運動面の特徴などを十分に理解しておくことによって、事故を未然に防ぐための配慮や工夫をすることができる。

●こどもの発達の目安と起こりやすい事故＜資料編 P1＞

場所における危険

日頃生活している園舎内外には危険がたくさん潜んでいる。

各施設の状況に合わせて、どこにどんな危険が潜んでいるか洗い出し、全職員がその危険について周知し、どのように対応するか決めておく。

◆こどもの行動上想定される事故

◆設備上起こり得る事故 ⇒ 安全点検表を活用

●施設安全点検表１ ＜資料編 P2＞
●遊具（園内外）安全点検表２＜資料編 P4＞
●保育室安全点検表３ ＜資料編 P5＞

遊びや活動に伴う危険

- 遊具を使った遊び・・・・転落、転倒、打撲、擦過傷等
- 室内遊び・・・・・・・・転倒、打撲、指をはさむ、誤飲（玩具等）、挫傷等
- プール、水遊び・・・・・溺水、転倒等
- 園外・・・・・・・・・・・交通事故、転倒、打撲、誤飲（ゴミ、枯葉等）等
- 食事中・・・・・・・・・・誤嚥、食物アレルギー等
- 睡眠中・・・・・・・・・・窒息等

＜リスクとハザード＞

遊具は、こどもに楽しい遊びを提供する大切な道具である。遊びにはある程度の危険が伴うもので、この危険への挑戦が楽しさにつながり、さらには危険を回避する能力や、危険を予知する能力が養われる。遊びの楽しさに伴う危険を「リスク」という。一方、遊びの楽しさに無関係で、あってはならない危険を「ハザード」という。

一般社団法人日本公園施設業協会（JPFA）編集発行
「仲良く遊ぼう安全に」より引用

重大事故を予防する

～ こどもの命を守るために ～

教育・保育施設に勤務する職員は、「大切な命を預かる」という責任の重さを受け止めて業務にあたらなくてはならない。

保育中、常に全員のこどもの動きを把握し、職員間の連携を密にしてこどもたちの観察の空白時間が生じないようにする。こどもの安全の観察に当たっては、一人一人のこどもを確実に観察することが重要である。

こどもが安心できる環境づくりには、職員一人一人の意識が大切である

「誰かが見ていてくれると思っていた」ではなく声を掛け合い、常にこどもの動きを把握する。
場面の切り替わりには、必ず人数確認を行い、事故を未然に防ぐ。（ダブルチェック体制の徹底）



保育現場では、命に関わる危険なリスクも潜んでいる

●重大事故とは

○死亡事故
○意識不明事故（どんな刺激にも反応しない状態に陥ったもの）
○治療に要する期間が 30 日以上の負傷や疾病を伴う重篤な事故

●重大事故が発生しやすい場面



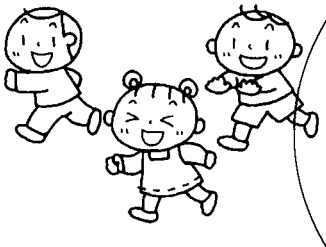
○食う（食事中など）
○寝る（睡眠中）
○水遊び（プール活動）
○園外保育など

チェックポイントを確認し、事故を防ぐ

次ページ以降に、重大事故が発生しやすい場面のチェックポイントをまとめた。安全な保育環境を確保するため、場面に応じた適切な対応をすることが重要である。

重大事故を予防するチェックポイント・・・ **食う** 寝る 水遊び 園外保育

食べること＝危険！の意識を持つ 👀 いつも観察



こどもの特性

こどもは思いもよらない行動を起こす

・こどもの嚥下発達の把握
⇒保護者との情報共有



食べ物や玩具の性質

・大きさ、形状
・食感（表面の滑らかさ、弾力性、固さ、噛み切りにくさ）

職員の窒息危険性への認識不足

＜給食等で提供を避ける食材の一例＞
・ミニトマト
・乾いたナッツ、豆類等
・白玉団子

※令和４年９月９日付保育課通知　新育第７６８号の２
「保育施設における誤嚥・窒息事故防止対策について」参照

※誤嚥・窒息につながりやすい食材については、
『保育施設における食事提供の手引き』新潟市こども未来部幼保支援課　参照

さまざまな要因が誤嚥・誤飲・窒息事故につながる！

誤　嚥・・・食道へ送り込まれるはずの食物が誤って咽頭や、気管に入ること
誤　飲・・・食物以外の物を誤って飲み込んでしまうこと
※誤食については、「食物アレルギー対応マニュアル」に記載

こども一人一人の様子を日常的に把握する



・こどもの健康状態
（当日に保護者から丁寧に聞き取る）
・こどもの発達と行動

職員間（保育士・調理員・看護師等）で情報共有することが大切！



食　　事

チェックポイント①

1．環境

- □　食器・食具（はし、哺乳瓶）は適切か
- □　机・椅子の高さは適切か
- □　慌てて配膳していないか
  （誤配膳防止を含む）



チェックポイント②

2．食品の形態

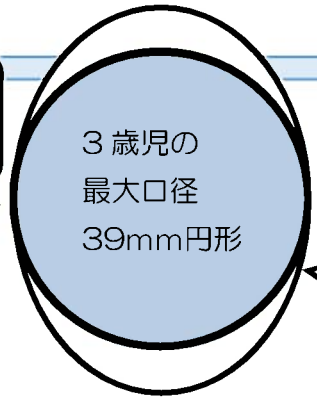
- □　大きさ・形状・温度・量・粘度等は適切か
- □　個々に応じた一口の量・大きさに調整しているか
- □　球状のものはカットされているか

チェックポイント③

3．食事時間

- □　正しい姿勢で座っているか
- □　こどもの意思に合ったタイミングで食べさせているか
- □　こどもの口に合った量を与えているか
  詰め込まないよう声をかけているか
- □　よく噛むよう伝えているか
- □　食べ物を飲み込んだことを確認しているか
- □　汁物などの水分を適切に与えているか
- □　食事中に驚かせていないか「笑う・泣く」が
  起きたとき詰まらないよう観察しているか
- □　眠くなった時、無理に口に入れていないか
- □　食べるスピードが速すぎないか
- □　食事終了後、口の中に食べ物が入っていないか

確認しましょう！
チャイルドマウス



この円形・楕円形の中に入るものはこどもの口に入ります。縦、横、斜めにして楕円形に入りそうなものは、窒息の危険があります。

食事以外（保育中）

チェックポイント

- □　誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけたりしていないか
  保護者にも協力を求めているか
  （例：髪飾り、キーホルダー、ビー玉、磁石、　小石、木の実等、菓子、フード付き上着など）



- □　職員は服装に気を付けているか（髪留め、ピアス、ボタン等）
- □　絆創膏は剥がれかかっていないか

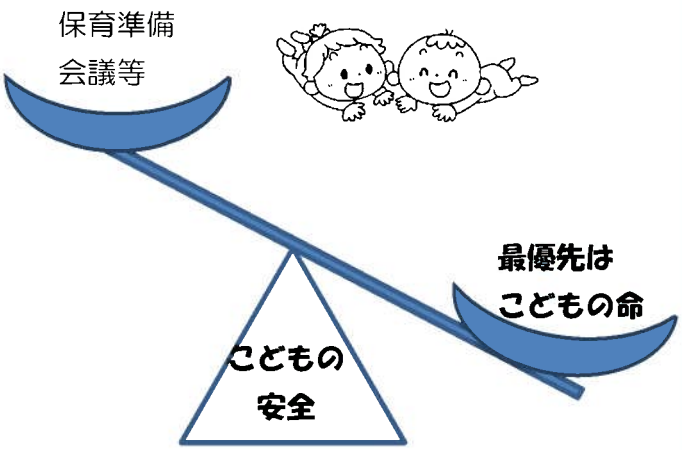


- □　おんぶをする時、こどもが何も手に持っていないか確認しているか
- □　手先を使う遊びには、部品が外れない工夫をしたものを使用しているか
- □　発達に応じたおもちゃを選択しているか
  （素材や大きさなど）
- □　異年齢が一緒に遊ぶ場合は、低年齢児の安全に配慮したおもちゃを選択しているか
- □　薬品、洗剤はカギがかかる場所に保管しているか（必要に応じて）
- □　菜園活動中や散歩中等に、作物や木の実等を口に入れていないか
- □　窒息の危険性があった玩具やこれまでに窒息事例があるものと類似した形状の玩具等については、施設・事業所内で情報を共有し、除去しているか

重大事故を予防するチェックポイント・・・食う　**寝る**　水遊び　園外保育

睡眠中が最も突然死等のリスクが高い！

―《自園でも起こりうる》という前提で突然死等を予防する ―



こどもの命を守ること　＝　職員の心と仕事を守ること

突然死等のリスクの軽減
- 窒息の危険を取り除く
- 眠り始める時はあおむけに寝かせる
- 預け始めの時期は要観察

異常の早期発見
- 睡眠チェックをする
- 睡眠チェックに専念できる体制づくり

緊急体制の整備
- 救急車要請と蘇生措置

気づきとヒヤリハットの共有
- 危険に気付く（ヒヤリハット）
- 職員間で予防策を確認し共有する

チェックポイント①

入園時の確認

□入園児の生育歴を把握する

□配慮事項がある場合は全職員で情報を共有する

□SIDS 対策普及啓発用ポスター（こども家庭庁）を掲示したりリーフレットを配布したりする

□こどもの健康状態等の情報を日々保護者と共有する（預け始めや体調の悪い時は要注意）



チェックポイント②

睡眠中の観察　☛全身状態の確認

□１歳になるまでは、眠り始める時はあおむけに寝かせる

□寝返りが自立するまではうつぶせ寝を見つけたら、顔が見える**あおむけ**にする（**お腹を上にした体位**）※医学的な理由で医師から勧められている場合以外

□タオルやぬいぐるみは周りに置かない

□０歳児は５分毎
　１歳児は 10 分毎
　２歳児は１０分～１５分毎
　３歳児以上は 20 分毎
　に観察する

- 名前の確認、顔色、唇の色
- 呼吸状態の有無（呼吸音、胸の動き）
- 呼吸の様子（咳、喘鳴、鼻づまり）
- 体温（体に触れる、発汗）
- 体位

□その都度、睡眠チェック表に記録する。

●睡眠チェック表〈資料編 P6～9〉

チェックポイント③

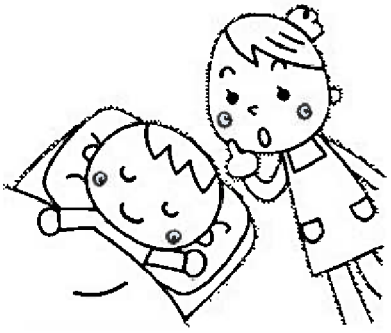
睡眠環境等の確認



- □ 敷き布団は固めのものか
- □ 掛け布団は軽いものか
- □ コットの上のマット等は固定されているか
- □ 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
- □ 布団と布団の間に顔が埋まらないよう布団のすき間をあけて敷いているか
- □ 周囲に「ぬいぐるみ」「おもちゃ」「ヒモ状のもの」はないか
- □ 室内は顔色等が観察できる明るさか

カーテンは直射日光や寒さ防止等、必要な場合を除いて、基本的には明るさ確保のため開けておく

- □ 体調等いつもと違う様子はないか
- □ 口の中に何も入っていないか
- □ 授乳後、ゲップはしたか
- □ よだれかけは、はずしているか
- □ 着せすぎていないか
- □ おもちゃ等を持っていないか
- □ 布団に入る時から仰向けにしているか
- □ 掛け布団やタオルで口元が隠れていないか





- □ 部屋は適温・適湿か
- □ 適宜換気を行っているか

※適切な室内環境の目安

- 温度：（夏）　26～28℃
  　　：（冬）　20～23℃
- 湿度：約 60%
- 換気：１時間に１回

- 室温湿度計はこどもが生活する高さに設置する（安全に留意しながら）
- 冷房は床面の温度が 2～3℃低い場合があるので睡眠時は留意する
- 床暖房やホットカーペットは暖めすぎに注意しながら適宜使用する

水遊びには監視者　☛　こどもから目を離さない

徹底した安全対策



監視体制の確立
監視者が監視に専念できる体制作り



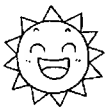
緊急時への対応
心肺蘇生法・AED 操作研修
緊急時の応援体制の確立
（シミュレーション研修）



乳幼児の特性とリスク
３㎝の深さでも溺れることがある
～こどもは静かに溺れる～

★安全を最優先に考え、
十分な監視体制が確保できない場合は、プール活動を中止する！

●監視体制の空白が生じないように**監視を行う者**と**プール指導を行う者**を分けて配置する



監視者とは

プールサイドのこども達と遊んだり
プール指導者の補助をしたりせず、
監視に専念する者
〇話しかけない　〇頼まない



「監視者」の目印等を決める
・ビブス
・タスキ
・キャップなど

役割

□プールサイドからプール全域（水面と水の中）をくまなく監視する
□プールに参加しているこどもの人数を把握し、確認を適宜行う
□動かないこどもや不自然な動きをしているこどもを見つける
□特定のこどもに目線を固定せず、個々の特性を理解し、規則的に目線を動かしながら全体を監視する　異常かどうかの見極めは、顔（特に目）を見る
□持ち場を離れる時は、代わりの職員を配置する
□こどもが全員プールからあがるまで目を離さない

チェックポイント①

1．事前管理

- □ 監視者は配置できるか
- □ 水遊び（プール遊び）のマニュアルの確認
- □ 慢性疾患等の配慮を必要とするこどもへの対応の確認
- □ 当日プール活動ができないこどもへの対応の確認
- □ 排泄が自立していないこどもへの対応の確認
- □ プールに入る人数の確認（人口密度を少なくする）

チェックポイント②

2．気象情報による活動実施の判断

★ひとつでも当てはまる場合、
プール遊びは中止とする

- ○水温＋気温＝５０度未満又は６５度以上
- ○暑さ指数３１以上
- ○光化学スモッグ警報発令のとき
- ○PM2.5 の注意喚起のとき
- ○雨天、強風、雷

暑さ指数３１以上は、「運動は原則禁止」とされているため、水遊び・シャワーなどについては各施設で判断する

【運動に関する指針】

（公財）日本スポーツ協会
「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（2019）より

気温（参考）	暑さ指数（WBGT）	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31℃以上 35℃未満	28以上 31未満	厳重警戒 （激しい運動は中止）	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28℃以上 31℃未満	25以上 28未満	警戒 （積極的に休憩）	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24℃以上 28℃未満	21以上 25未満	注意 （積極的に水分補給）	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	ほぼ安全 （適宜水分補給）	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

暑さ指数は、環境省の熱中症予防情報サイトで確認することができます。時刻とともに変化するので、こまめに確認しましょう。

熱中症予防情報サイト
＞全国の暑さ指数
＞北陸地方　新潟県　新潟
＞暑さ指数の実況と予測

チェックポイント③

3．環境の整備

- □ 日よけ対策は行っているか
- □ プールの破損・亀裂はないか
- □ 石やガラス等の危険物、鳥の糞はないか
- □ プールサイドは滑りやすくなっていないか
- □ 排水溝の安全対策は行ったか
- □ プールの清掃と整理は行ったか
- □ プライバシーへの配慮は行っているか
- □ 監視場所に死角はないか
- □ 心肺蘇生法・AED 操作や緊急時対応のフローチャートをプール付近で確認できるか



チェックポイント④

4. 活動前の確認

プール

- □ プールの環境は適切か
- □ 水深は年齢に応じて調整できているか
- □ 適正な遊離残留塩素濃度になっているか（遊離残留塩素濃度 0.4～1.0 ㎎/L）
- □ ゴミや窒息の危険のある玩具はないか

こども

- □ 体温・顔色・機嫌・便の状態はどうか
- □ 目ヤニ・充血・鼻水・発疹等はないか
- □ 傷はないか（出血、化膿はしていないか）
- □ 絆創膏や湿布を貼っていないか
- □ 水分補給は適切に行っているか
- □ 帽子を着用しているか
- □ 準備運動を行ったか
- □ シャワーで適切に体を洗ったか
- □ おしりに排せつ物が残っていないか

職員

- □ こどもへの安全指導は行ったか
- □ 職員の健康状態はどうか
- □ 職員の役割分担は決まっているか
- □ 人数を監視者に伝えたか

チェックポイント⑤

5. 準備物の用意

- □ 塩素剤
- □ 残留塩素測定器・試薬
- □ 気温計・水温計
- □ プール日誌
- □ 時計・携帯電話

（こどもの手の届かない位置に保管）

- □ 救急用具（応急手当セット、毛布、バスタオル、笛等）
- □ AED は近くにあるか

チェックポイント⑥

6. 活動中の確認

- □ 遊離残留塩素濃度を 30 分ごとに測定しているか
- □ 健康状態（顔色や身体の様子）はどうか
- □ 監視者はプール全域をくまなく監視しているか
- □ こどもの人数を把握できているか



チェックポイント⑦

7. 活動後の確認

- □ 人数確認を確実にしたか
- □ ケガはないか
- □ 健康状態はどうか
- □ シャワーで体を洗ったか
- □ 体をしっかり拭いたか
- □ うがいをしたか
- □ 水分補給をしたか
- □ 保育室の室温は適切か
- □ プール日誌に記録をしたか
- □ 速やかにプールの水を排水し、こどもが入れない対策をとっているか

プール日誌

年　月　日（　曜日）　天気				
時間帯	時　分	時　分	時　分	時　分
クラス名				
入水人数	人	人	人	人
気温	℃	℃	℃	℃
水温	℃	℃	℃	℃
採水時の遊離残留塩素濃度	㎎/L	㎎/L	㎎/L	㎎/L
消毒開始時間	時　分	時　分	時　分	時　分
消毒開始時の濃度	㎎/L	㎎/L	㎎/L	㎎/L
監視者名				
備考				

重大事故を予防するポイント・・・食う　寝る　水遊び

園外保育

戸外は行動範囲が広くなる ☛ 声に出して人数確認



人数確認　出発前⇒　歩行中⇒　目的地到着後・随時・出発時⇒　帰園後

必ず
ダブルチェック
しましょう！



散歩(園外保育活動)のねらい
- 年齢や発達に合ったねらいを設定する

十分な職員体制
- 事前に役割分担をしておく
- 突発的な行動（状況）に対応できる人員配置で出かける

チェックリストの確認と周知
- 年齢別チェックリスト、園外保育チェックリスト、園児数確認メモ
  お散歩行ってきますカード

目的地の事前調査(散歩経路マップ、公園マップの作成)
- 実際にこどもの目線で歩いてみる
- 季節や気候、工事など突発的な事でも目的地や途中までの
  配慮が異なるため、日頃から状況把握をしておく

散歩時のチェックポイント

□事前に経路、目的地の下見に行き、その情報を職員と共有したか
□お散歩いってきますカードを作成したか
□職員の役割を確認したか（歩くときの配置、人数確認等）
□散歩カー、避難車の安全点検を行ったか（乳児クラス）

園外保育時のチェックポイント

□行き先が年齢や発達に合っているか
□下見に行ったか
□当日の計画書を作成したか(雨天時を含む)
□ケガ等に備え、目的地近隣の病院（電話番号、診療時間）・タクシー会社（電話番号、支払い方法）を確認したか
□利用する交通機関に事前連絡したか
□名札着用の際は、個人情報に留意したか

共通のチェックポイント

□こどもの心身の健康状態を把握し、参加の可否を判断したか
□服装（靴）は適切か（安全性、気候、気温を考慮する）
□出発前に万が一に備え服装等がわかるようにこどもの写真を撮ったか
□帰園後、こどもの健康状態、ケガの有無を確認し、ヒヤリハット事例があった場合には職員で共有したか

持ち物

□防犯ブザー、笛
□救急用品　□携帯電話
□園外保育チェックリスト
□園児数確認メモ
□筆記用具　□着替え

「学校安全計画と危機管理マニュアル」「安全計画」（危機管理を含む）の作成

幼保連携型認定こども園・幼稚園型認定こども園・幼稚園においては、学校保健安全法第 27 条に安全計画の策定、第 29 条に危機管理マニュアルを作成することと規定されている。

令和５年４月より保育園・保育所型認定こども園・地域型保育事業・認可外保育施設・地方裁量型認定こども園（以下「保育所等」という。）においては、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準に基づき、全ての保育所等は、保育所等を利用する児童の安全を確保する計画（以下「安全計画」という。）を策定し、取り組むことが義務付けられた。（表 1、2 参照）

（表 1）施設の種別による計画について（内容は表 2 を参照）

施設種別	計画・マニュアル	内容
幼保連携型認定こども園・幼稚園型認定こども園・幼稚園	学校安全計画	A
	危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）	B
保育園・保育所型認定こども園・地域型保育事業・地方裁量型認定こども園・認可外保育施設	安全計画（危機管理を含む）	A B

（表 2）計画書に求められる内容

		内容	必要な取組
A	安全に関する内容	・施設等の設備の安全点検の実施 ・園外活動を含む日常生活における安全対策 ・職員への研修や訓練 ・保護者への説明・共有 ・計画の定期的な見直し・変更(毎年・随時)　等	計画及び危機管理マニュアルの ・策定 ・説明・周知（職員・保護者等） ・訓練 ・見直し・変更 ※地域の関係機関との連携に努める。 必要な取組を実施することをもって、安全計画を行ったものとする。
B	危機管理に関する内容	危険等が発生した際に、職員が円滑かつ的確な対応を図るためのもの ・事前の危機管理（体制整備や点検、避難訓練） ・個別の危機管理（様々な事故等への具体的な対応） ・事後の危機管理（引き渡しや心のケア、調査、報告）	

詳しくは、以下を参照のこと。

・R4 年 12 月 15 日付【事務連絡】厚生労働省「保育所等における安全計画の策定に関する留意事項について」
・R4 年 12 月 16 日付【事務連絡】厚生労働省「認可外保育施設における安全計画の策定に関する留意事項について」
・R3年６月９日付【事務連絡】文部科学省「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドラインの活用について」
・H31 年３月改訂 文部科学省 学校安全資料「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」
・H30 年２月初版　文部科学省　学校の危機管理マニュアル作成の手引き
・H２９年３月３１日公示　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
・H２９年３月 31 日告示　保育所保育指針

事故の発生防止（予防）のための取組み

（１）事故予防対策

こどもの日常生活の中にある、小さな危険に気づき、事故発生予防につなげる。

① 安全点検及び改善

定期的に点検、記録し、結果に基づいて問題のある箇所の改善を行い、その結果を職員に周知して情報の共有を図る。

点検表	点検頻度	点検者
施設安全点検表１	週１回	園長 or 主任
遊具（園内外）安全点検表２	毎日	保育士
保育室安全点検表３	毎日	保育士

※各園の実情や実態に応じて、項目の見直しを行い実施する。

●施設安全点検表１　＜資料編 P2＞
●遊具（園内外）安全点検表２　＜資料編 P4＞
●保育室安全点検表３　＜資料編 P5＞

② こどもの人数確認

様々な場面で人数確認を行い、事故を未然に防ぐ。

・出欠状況の確認　→　ＩＣＴシステムを有効活用しながら常に動静把握を行い、職員間における情報共有を徹底する。欠席連絡が入っていない場合は、必ず保護者へ速やかな確認を行う。
・登園時、散歩等の園外活動の前後、場面の切り替わり等、ダブルチェック体制の徹底。
・送迎バス運行の場合　→　乗車時及び降車時の確認及び降車後の座席確認。
　バス乗車職員と園で受け入れる（送り出す）職員との情報共有の徹底。

③ 園舎マップの作成

園舎マップを作成し、園舎内の危険箇所、注意が必要な箇所をチェックし、職員間で共有する。常に職員からの情報を収集し、追記していく。

④ ヒヤリハットの記録、情報共有

「ヒヤリ」「ハッ」とした出来事を記録し、職員間で情報共有する。事故報告が不要な「受診に至らない小さなケガ」や「誤飲」、「負傷はないがヒヤリとした事例」について、必ず「ヒヤリハット」記録に残し、自園の傾向を知るために分析・対策を講じ、全職員に周知する。

●ヒヤリハットの記録＜資料編 P17＞

⑤ 保育上の自主点検

年齢別事故防止チェックリストを参考に、施設や保育内容に沿ったチェックリストを作成し、日常の保育の見直しと職員間の共通理解を深める。

●0～5 歳児用　事故防止チェックリスト
＜資料編 P18～33＞

⑥ 映像記録の活用

睡眠中、水遊び、食事中等の活動における危険の有無の確認や、万が一事故が発生した場合の検証ができるよう、必要に応じてビデオ等の記録機器の活用を検討する。

⑦ 送迎バス運行について

・送迎バスの安全管理マニュアルを策定し、全職員で共通理解を図る。
・運転をする職員の他にこどもの対応ができる職員が同乗する体制を作る。
・点呼等の方法により、乗降車の際のこどもの所在確認を徹底する。
・送迎バスにこどもの見落としを防止する安全装置を装備する。

（2）緊急時の対応体制の確認・周知

「いつ、誰に起こるかわからない＝私たちの園でも起こる可能性がある」という前提で、日頃から緊急時の対応体制を整えておく。

① 緊急時の役割分担を決め、掲示する。　●緊急時の役割分担　＜資料編 P34＞

②受診医療機関のリスト、救急車の呼び方を掲示する。

●救急車の呼び方　＜資料編 P35＞
●病院緊急連絡先　＜資料編 P36＞

③緊急時に必要と思われるものを準備しておく。

≪参考例≫　受診時の持ち物・関係機関（区役所、警察等）一覧

（3）職員の資質向上

①事故への認識、危険に対する予測能力、危機管理意識の向上を図る。
・P12（1）事故予防対策①～⑤について、施設内で研修や職員会議などで話し合い、こどもの発育・発達と事故との関係、事故の生じやすい場所等を共有する。

②緊急対応、事故発生時の対応能力の向上を図る。
・自治体等で行われる研修・実技講習等に積極的に参加する。
救急対応（心肺蘇生法、気道内異物除去、 AED・エピペン®の使用等）の実技講習、事故発生時の対処方法を身につける実践的な研修。
・119 番通報訓練を行う。園庭での活動中、園外活動中、プールでの活動中等、場所や場面、職員の配置の状況を変え、実践的なものとなるよう工夫して実施する。

※上記については、教育・保育施設に関わる全ての職員が対象

（4）安全教育

事故防止のために、こどもや保護者に対する安全教育にも取り組むことが望ましい。

① こどもの年齢や発達、能力に応じた方法で、こども自身が安全や危険を認識できるようにする。
- こども自身に危険を認識させる。（園舎マップ、散歩経路マップ等活用）
- 遊具の正しい使い方、遊び方を知らせる。
- 遊びを通して、運動能力や危険回避能力を高める。

②家庭における保護者の行動や教育により、こどもが安全な生活習慣を身に付けることができるよう保護者と連携を図る。
- プール活動・水遊び、誤嚥等の対応については、保護者の理解と連携が必要になる。
- こどもの事故防止対策について、園だより等で保護者に周知する。

参考資料：大阪市　事故防止及び事故発生時対応マニュアル　―基礎編―

事故の再発防止のための取組み　＝　類似事故の予防

（1）再発防止策の策定

類似事故が再発しないように、事故後の検証、分析を踏まえて、再発防止策を検討する。

検証　→　直接現場の状況や人・物を様々な角度から観察して、事故の概要、事故発生までの経緯を把握する。

視　現場の環境、設備、人（こども・職員等）、人的配置、管理、行動等

分析　→　どうして事故が発生したのか、事故発生の原因、危機対応への問題点を下記の分析方法で掘り起こす。

＜SHELL（シェル）分析＞

項　目	内　容
ソフト面	マニュアル・研修・職員配置などに関わるもの
ハード面	施設・設備・遊具の状況などに関わる「物的要因」
環境面	こどもの生活環境（照明、空間等） 職員の労働環境（労働時間、休暇等） 自然環境（暑さ、寒さ、雨、雪、湿度等）
人的面	担当職員、こども、関係者の個人的要素

※国への重大事故報告様式でも、この項目にそって要因分析することになっている。

Software（ソフト面）　Hardware（ハード面）　Environment（環境面）
Liveware（人的面）の頭文字をとって「SHELL 分析」という。

再発防止策の策定

《具体的な再発防止策を検討する視点》

●事故発生の原因はなにか。
●防ぐことはできなかったか。
●連携・対応はうまく行えたか。
●類似事故の発生防止のために何をすべきか。

職員全体で再発防止策を考える

具体策の悪い例	その理由
注意してよく見る	漠然としている
全体を意識して見る	どの距離感で見るか個人差が出る
随時点検する	「何分に何回」「○時に」「○○したとき」など頻度が具体化されていない
常に目を離さない	集団保育の中で現実として不可能

具体的で　実行可能な　再発防止策を！

（２）職員等への周知徹底

類似事故が発生しないよう、発生した事故についての情報を共有し、再発防止策について、全職員に周知する。必要に応じて保護者と共有する。

（周知方法の例）
職員会議・園内研修・文書やノートの回覧・掲示・リーダー会議から全職員への伝達ヒヤリハット会議・保育総合システム等を使った情報共有　など

Ⅱ　事故発生時の対応

1　事故発生直後の対応　～施設・事業者～

（1）　事故への対応

対応	対応の内容
事故直後の状況把握と応急処置	①　事故の状況を的確に把握する。（ケガ人、現場、周囲の状況等） ②　ケガの程度等を見極め、応急処置をする。 事故現場からの移動が可能な場合は、医務室等へ連れて行く。 ③　他のこどもは速やかに場所を移動させて保育を行う。 ・こどもの生命と健康を優先し、応急処置は迅速に行う。 ・受診の判断に迷う場合は受診する。 ・職員は事故の状況やこどもの様子に動揺せず、またこどもの不安を軽減するように対応する。
園長等へ報告	・園長、主任等へ報告する。
処置の決定	①　園長、主任等を交えて処置を決定する。 担当職員だけで判断しない。 園長、主任が不在時にも対応ができるように、次にリーダーとなる職員を決めておき、日頃から緊急時の役割分担について明確にしておく。 ●「緊急時の役割分担」＜資料編 P34＞ ・救急車を要請する。　・医療機関へ連れて行く。 ・安静にして経過を見る。　・応急手当を行い、保育を続行する。 ②　受診時、職員も同行する。 ※医療機関等の一覧を作成しておく。 （電話番号、住所、診療科、診療時間、休診日） ●「病院緊急連絡先」　＜資料編 P36＞
保護者への連絡	・保育中のケガについては、保護者へ必ず説明する。 **【事故発生時に電話連絡をする際の注意事項】** 事故の発生状況、医療機関の診察・検査結果、今後の受診等について的確に報告し、誠意をもって丁寧に対応する。 ① 最初に事故を起こしてしまったお詫びを言う。 ② 事故の概要を要領よく伝える。（内容を整理して書き出しておく） ③ こどもの事故の状況、ケガの程度等を具体的及び客観的に説明する。 ④ 「大丈夫です」「たいしたことはありません」等の安易な言葉はさける。 ⑤ ケガの程度を聞かれたら、確認できる範囲内において説明する。 ⑥ 相手の話を傾聴し、最後に再度お詫びを言う。
事故報告	P21　事故関係の報告について　参照

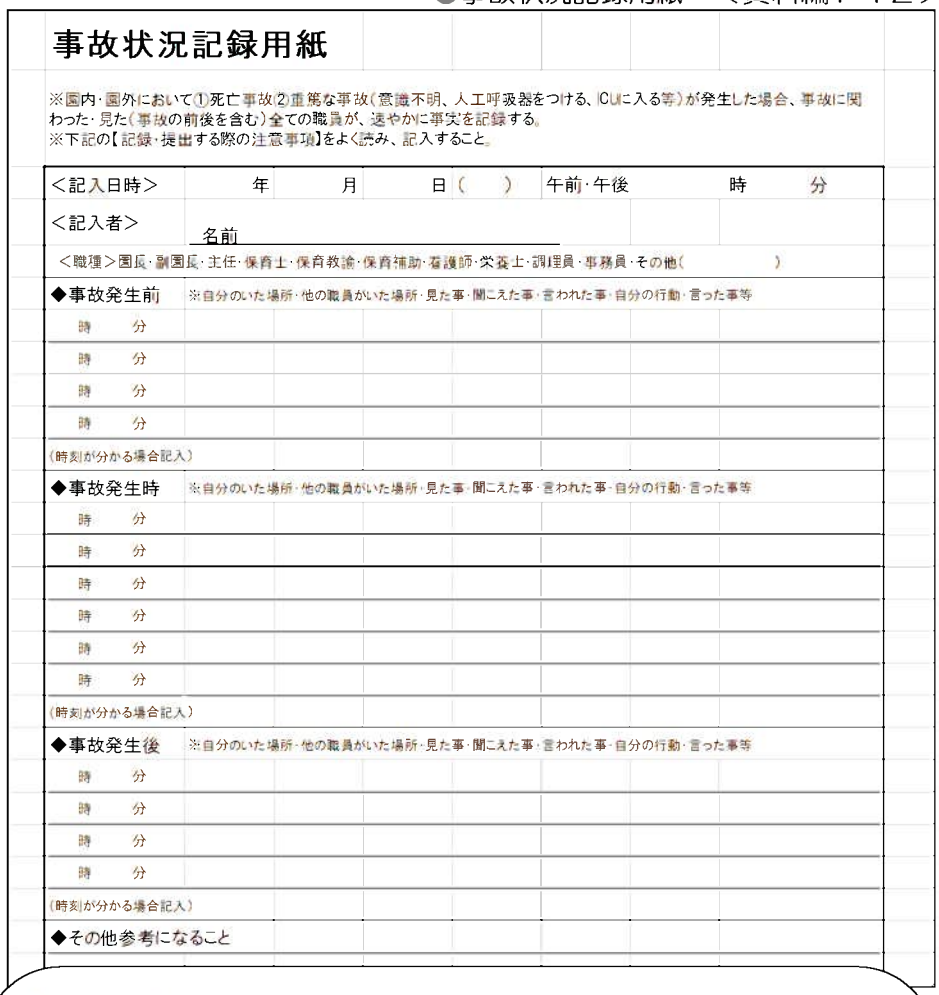
（２）重大事故への対応

●重大事故とは
○死亡事故。
○意識不明事故（どんな刺激にも反応しない状態に陥ったもの）
○治療に要する期間が３０日以上の負傷や疾病を伴う重篤な事故等。

<table>
<tr><th>対応</th><th>重大事故への対応</th></tr>
<tr><td>事故発生直後</td><td>○事故にあったこどもの応急処置を行う。
○施設長、他の職員と連絡をとり、緊急時の役割分担表に基づき、事故対応に係る役割を分担する。

＜迅速な対応の手順＞
①心肺蘇生・応急処置。
必要と判断した場合には、直ちに１１９番通報をする。
②事故の状況を的確に判断する（けが人、現場・周囲の状況等）。
③保護者へ連絡（現在分かっている事実を説明する）。
＜留意点＞
・こどもの生命と健康を優先し、応急処置は迅速に行う。
・受診の判断に迷う場合は受診する。
・職員は事故の状況やこどもの様子に動揺せず、またこどもの不安を軽減するように対処する。</td></tr>
<tr><td>緊急時の
役割分担</td><td>○緊急時の役割分担に基づき対応できるよう役割分担を決めておく。
園長が不在でも対応できるようにしておく。
<table><tr><td>園長</td><td>指揮、職員・関係機関への連絡調整</td></tr><tr><td>主任</td><td>保育の統括、保護者への連絡</td></tr><tr><td>保育士等</td><td>保育、避難誘導、（応急手当）</td></tr><tr><td>看護師</td><td>応急手当</td></tr><tr><td>保育補助</td><td>保育、避難誘導</td></tr><tr><td>調理員等</td><td>保育の補助</td></tr></table>
「緊急時の役割分担」＜資料編 P34＞</td></tr>
<tr><td>関係者への連絡</td><td>○各区役所健康福祉課（私立は、法人本部にも連絡）
○病児・病後児保育事業施設、認可外保育施設、地域子育て支援センター、一時預かりは幼保支援課へ連絡</td></tr>
</table>

教育・保育の継続	○事故現場の現状保存 ○事故にあったこども以外の教育・保育の継続 ※事故への対応と教育・保育を実施する職員は、可能な限り分けて配置する。
事故状況の記録	○事故報告の記録の他、事故に係った職員は、他の職員と相談せず、１人ずつ個別に、事故の状況を時系列に記録する。(当日中) ●事故状況記録用紙　＜資料編Ｐ４２＞



事故状況記録用紙

※園内・園外において①死亡事故②重篤な事故（意識不明、人工呼吸器をつける、ICUに入る等）が発生した場合、事故に関わった・見た（事故の前後を含む）全ての職員が、速やかに事実を記録する。
※下記の【記録・提出する際の注意事項】をよく読み、記入すること。

＜記入日時＞　年　月　日（　）　午前・午後　時　分

＜記入者＞　名前

＜職種＞園長・副園長・主任・保育士・保育教諭・保育補助・看護師・栄養士・調理員・事務員・その他（　）

◆事故発生前　※自分のいた場所・他の職員がいた場所・見た事・聞こえた事・言われた事・自分の行動・言った事等

時　分
時　分
時　分
時　分
（時刻が分かる場合記入）

◆事故発生時　※自分のいた場所・他の職員がいた場所・見た事・聞こえた事・言われた事・自分の行動・言った事等

時　分
時　分
時　分
時　分
時　分
時　分
（時刻が分かる場合記入）

◆事故発生後　※自分のいた場所・他の職員がいた場所・見た事・聞こえた事・言われた事・自分の行動・言った事等

時　分
時　分
時　分
時　分
（時刻が分かる場合記入）

◆その他参考になること

①ボールペンなど修正できない筆記用具で、紙に、手書きで記録する。
②一人ひとりが個別に記録する。
③他の職員と相談しない。
④書き終わったものを見せ合ったり書いた内容について話をしない。
⑤書き終わったものは各教育・保育施設で保管するほか、各区役所健康福祉課へ送信（区は幼保支援課へ情報共有する）。
⑥書いた後「間違った」「書き忘れた」場合には元の記録用紙を加筆、修正するとともに、各区役所へ情報共有する。
※病児・病後児保育施設、認可外保育施設は幼保支援課へ提出・報告。

保護者等への対応	○保護者の心理を踏まえた丁寧な対応に留意すると共に、職員の精神面でのフォローも行う。対応時は、相手の話を傾聴し、誠意をもって丁寧に対応する。 **保護者への報告に関する留意点** ○電話で報告する場合、電話の前に伝える内容を整理等し、事故の概要を的確に伝える。なお、電話の内容は記録する。 ○こどもの事故の概況（事故発生の経緯、事故発生時の様子、受診結果）については、具体的かつ、客観的に説明するよう心がける。 ○保護者からの質問には、状況を踏まえ、確認できた内容の範囲内において説明する。不明な点や確認中の点については、その旨を伝える。 **事故にあった園児以外の保護者への対応** ○必要に応じて保護者説明会を開催し、正確な情報を伝える。不明な点や確認中の点については、その旨を伝える。 ○説明については、事故にあった園児の保護者の意向を確認、尊重して対応する。
報道機関への対応	○報道機関への対応窓口については、次のとおりとし、情報の混乱が生じないようにする。 ≪市立保育施設≫　　各区役所 ≪その他の保育施設≫　　各法人 ○個人情報の保護と以下の項目に留意し、事実関係や事故の再発防止への取組みを整理する。 ・断片的な情報を発信して誤解を与えることがないように、区役所または幼保支援課と連絡調整を行う。 ・報道機関等への対応の内容について、事故にあった園児の保護者へ丁寧に説明する。
事故報告	P21　事故関係の報告について　参照

<table>
<tr><td>事故後の検証</td><td>○事故防止の取組みや事故対応について、常に全職員で分析・評価を行い課題を整理する。
【評価事項（例）】<table><tr><th>未然防止活動</th><th>危機発生時</th></tr><tr><td>○一連の活動が機能しているか。
○全職員で取り組んでいるか。
○各種、チェックリストは活用されているか。
○ヒヤリ・ハット事例は改善されているか。
○訓練等は効果的に行われているか。　など</td><td>○危機発生の原因は何か。
○防ぐことはできなかったか。
○連携・対応はうまく行えたか。
○改善する点はどこか。
○手順をパターン化できないか。
など</td></tr></table>※死亡事故については検証委員会(*)において、事例ごとに検証を行う。
なお、死亡事故以外の重大事故として国への報告対象となる事例の中で市において検証が必要と判断した事例（例えば、意識不明等）について検証する。</td></tr>
<tr><td>再発防止策の検討</td><td>○事故検証の結果や評価から、事故防止の取組みや事故対応について、再発防止策を全職員で検討し、書面にまとめる。
○必要に応じ、保護者を交えて意見交換等を行い、相互理解を深める。
○全職員に周知し、再発防止に努める。</td></tr>
<tr><td>事故要因への対応</td><td>① 検証結果、再発防止策により、速やかに対応を行う。
② 明かに危険要因のある食材、玩具等は速やかに除去する、または危険のないよう対応する。</td></tr>
</table>

＊検証委員会とは
「新潟市教育・保育施設における重大事故再発防止のための検証委員会」
（平成３０年７月設置）外部の委員で構成し、事案が発生した場合に検証を行うもの

事故関係の報告について

別　紙　1

報告対象施設 ： 市立保育園･認定こども園、私立保育園、私立認定こども園、地域型保育事業施設、認可外保育施設、
病児･病後児保育事業、 地域子育て支援センター、一時預かり保育事業、 休日保育、こども誰でも通園制度実施施設

	報告対象	報告書様式	報告方法	報告先
1 事故報告	医療機関の受診を伴うすべての事故	―	電子申請による報告 (詳細は電子申請方法参照)	電子申請フォーム入力･回答 ⇒ 自動で区･幼保支援課へ送信される
		※重大事故等(骨折、縫合、歯のワイヤー固定、やけど等)の場合		
		事故の経過報告書を添付(pdfに変換する)	①電話で区へ第一報 ②電子申請	①区役所(電話) ②電子申請(自動送信)
		※国報告が必要な重大事故の場合		
		教育･保育施設等事故報告書 様式1(ver.6)	電子申請により「国報告が必要な事故である」と区、幼保支援課で判断した場合、幼保支援課から左記の国報告様式を該当園にメール送信するので、送信された手順にそって対応する(別紙2参照)	
2 園児置き去り･見失い等の報告	･園外保育等での園児の置き去り ･園外への飛び出しや園外保育、散歩等における園児の見失い ･上記と類似の状況	教育･保育施設等事故報告書 様式1(ver.6)	①電話で区へ第一報 ②メール送信	①区役所(電話) ②区役所および幼保支援課(メール)
3 自動車への置き去り事故	･送迎用バスの置き去り防止を支援する安全装置の装備が義務付けられている自動車への園児の置き去り ･安全装置の装備が義務付けられていない自動車への園児の置き去り	教育･保育施設等事故報告書(自動車への置き去り事故) 様式2	①電話で区へ第一報 ②メール送信	①区役所(電話) ②区役所および幼保支援課(メール)
4 危機事象報告	「1 事故報告」に該当しない事案のうち、危機的な状況を招いたもの または その可能性のあったもの ＜例＞ ･ケガ人はいないが通園バスが事故を起こした ･けいれんを起こし救急搬送 ･薬品が混ざってガス発生 等	危機事象発生状況報告書 様式5	①電話で区へ第一報 ②メール送信	①区役所(電話) ②区役所(メール)

※1 事故報告の電子申請は、4ページに記載の URL または二次元コードより申請フォームへアクセスしてください。

※【重大事故及び園児置き去り等とは】

国が示した基準	・死亡事故 ・意識不明事故(どんな刺激にも反応しない状態に陥ったもの) ・治療に要する期間が 30 日以上の負傷や疾病を伴う重篤な事故 **・自動車への置き去り事故 (追加)**
県追加基準	・対象施設内で生じた犯罪行為(警察・消防等他の機関が関わったもの) ・建物等の損傷を伴う事故(軽微なものを除く) ・児童福祉施設等内で生じた報道発表(取材による報道を含む) **・自動車への置き去り事故 (追加)** **・送迎バスや園外保育等での園児の置き去り** **・園外への飛び出しや園外保育、散歩等における園児の見失い** **・上記と類似の状況**

<報告先>

区	TEL(直通)	FAX	E-mail
北	025-387-1335	025-387-1020	kenko.n@city.niigata.lg.jp
東	025-250-2330	025-273-0177	nko.e@city.niigata.lg.jp
中央	025-223-7230	025-223-7151	kenko.c@city.niigata.lg.jp
江南	025-382-4353	025-381-1203	kenko.k@city.niigata.lg.jp
秋葉	0250-25-5615	0250-22-8250	kenko.a@city.niigata.lg.jp
南	025-372-6369	025-372-4033	kenko.s@city.niigata.lg.jp
西	025-264-7400	025-269-1670	kenko.w@city.niigata.lg.jp
西蒲	0256-72-8369	0256-72-3133	kenko.nsk@city.niigata.lg.jp
幼保支援課	025-226-1216	025-228-2197	yohoshien@city.niigata.lg.jp

令和８年６月
改訂版

別紙2

事故発生時の報告ルート（教育・保育施設等）

受診を伴う事故

重大事故等※1
（国報告に至らないがそれに準じる事故）

重大事故※2（様式1Ver.6 使用）
自動車への置き去り事故（様式2使用）
（国報告が求められている事故）

園児の置き去り見失い事故
（様式1Ver.6 使用）
（国報告が求められている事故）

施設が区役所へ電話で一報　原則として事故発生当日（遅くとも翌日）

区は施設からの内容を幼保支援課へ共有⇒幼保支援課は 自動車への置き去り事故 園児の置き去り見失い事故 について県こども家庭課へ電話で一報

施設が電子申請、事故報告書（第1報）は原則として事故発生当日（遅くとも翌日）に提出

施設が電子申請フォームに入力

施設が電子申請フォームに入力
事故の経過報告書（様式3）を添付

施設が該当の様式（様式1または様式2）を使用して
「教育・保育施設等事故報告書（第１報）」（表面）を作成し、メールで提出
提出先：各区指導保育士、幼保支援課

区指導保育士が内容確認、再発防止策の点検

必要に応じて現地訪問、再発防止策の実施確認

区指導保育士が毎月 10 日までに
前月の報告を確認完了

幼保支援課が事故報告件数を集約
各施設に事例共有・注意喚起

幼保支援課が県こども家庭課、こども家庭庁、消費者庁に報告書（第１報）を提出

幼保支援課が県こども家庭課、消費者庁に報告書（第１報）を提出

区指導保育士が現地確認、指導、助言

施設が再発防止策等の検討を行い
「教育・保育施設等事故報告書（第２報）」（裏面）を作成し、メールで提出
提出先：各区指導保育士、幼保支援課

区指導保育士及び幼保支援課が
事故報告書、再発防止策等（第２報）を点検

幼保支援課が県こども家庭課、こども家庭庁、消費者庁に事故報告書（第２報）を提出

幼保支援課が県こども家庭課、消費者庁に事故報告書（第２報）を提出

※1　重大事故等
・骨折（治療期間 30 日未満）
・縫合を伴う怪我　・火傷・その他重症と思われる怪我　等

※2　重大事故
・死亡事故
・意識不明事故（どんな刺激にも反応しない状態に陥ったもの）
・治療に要する期間が 30 日以上の負傷や疾病を伴う重篤な事故

参　考　資　料

○　教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のための
　　ガイドライン（厚生労働省）

○　こどもの発達と 起こりやすい事故 （国民生活センター）

○　園庭遊具の日常点検シート～日々の安全使用のために～（フレーベル館）

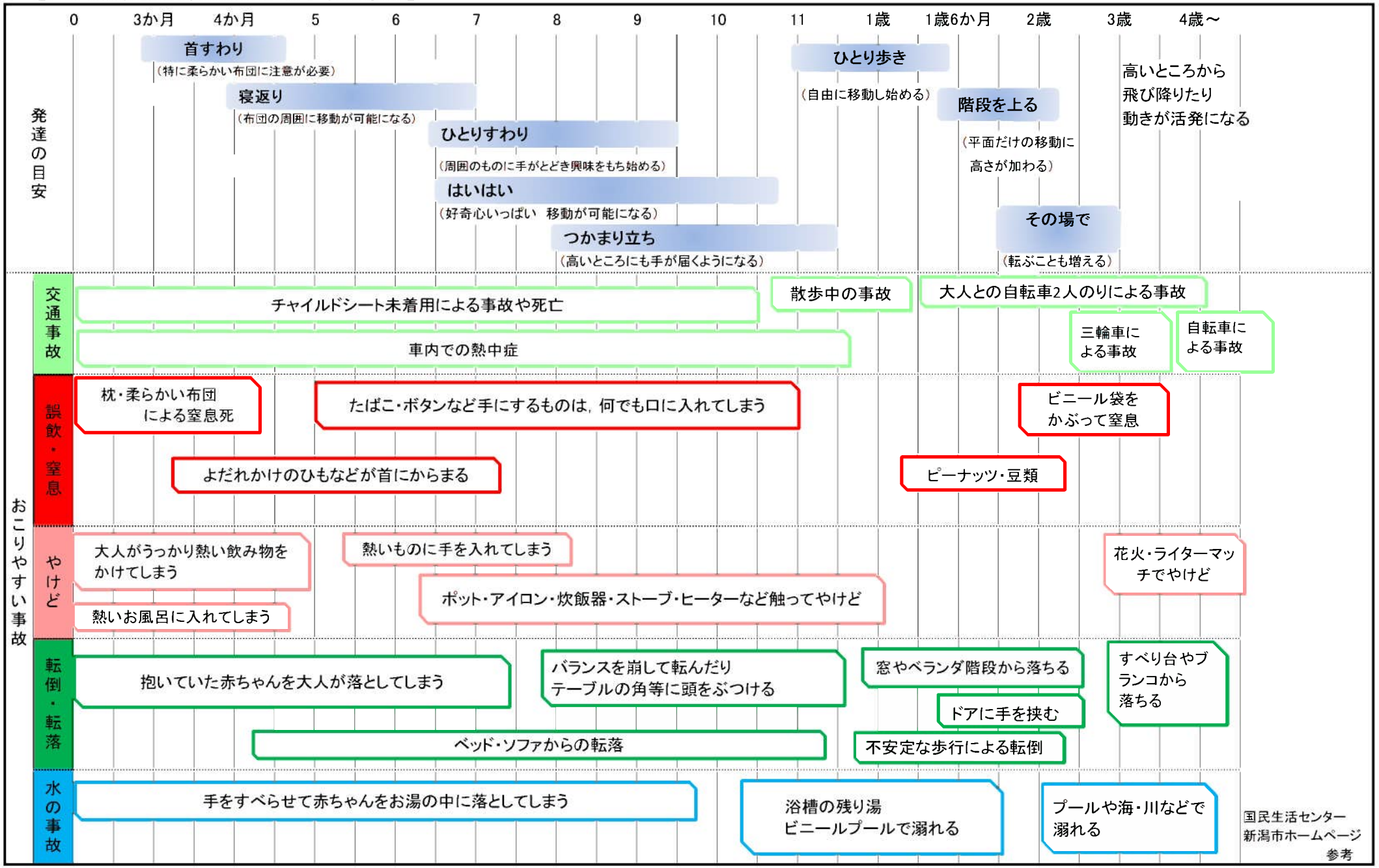
○　事故防止及び事故発生時対応マニュアル　ー基礎編―（大阪市）

関連ホームページ

○　新潟市ホームページ
　　＞子育て・教育＞妊娠・出産・子育て＞赤ちゃんが生まれたら
　　＞子育てアドバイス

資料編

【こどもの発達の目安と起こりやすい事故】



年　　月　施設安全点検表　1（環境上の点検事項）

※点検チェックは、良好（〇）、改善（×）で示す。
　備考欄には×の項目の改善内容等を記入する

施設名

週		チェックポイント	1週/	2週/	3週/	4週/	5週/	備考
		点検者						
園舎	門扉	門扉の開閉がスムーズにできる。						
		門扉の鍵に破損が無く、施錠が確実にできる。						
		こどもの飛び出し防止を講じてある。						
		外部から不審者が入れないように工夫してある。						
	玄関	玄関入口は開閉がスムーズにできる。						
		玄関入口はこどもが一人で開けられないようになっている。						
		玄関の鍵に破損が無く、施錠が確実にできる。						
		必要時に施錠され、不審者防御策を講じている。						
		危険なもの、不要なものが置かれていない。（避難路の確保）						
		玄関周りに破損はない。（床面、すのこ等）						
	廊下階段	危険なもの、不要なものが置かれていない。（避難路の確保）						
		階段には手すり、滑り止めがついている。						
		2階、階段踊り場には転落防止策がとられている。						
	事務室医務室	職員不在時にはこどもが自由に出入りしていない。						
		事務用品はこどもが触れないように片付けている。						
		家具類にはストッパー、転倒防止策が講じられている。						
		医薬品は適切に管理されている。						
		火災通報機のまわりに不要なものが置かれていない。						
		棚の上などに物を置いていない。						
	保育室	保育室は整理整頓されている。						
		家具類にはストッパー、転倒防止策を講じている。						
		壁面に釘、鋭利な突起物やささくれがない。画鋲の使用について、落下防止策がとられている。						
		手洗い場は清潔で安全性が保たれている。						
		床面の安全性が保たれている。						
		こどもの動線に配慮した環境設定となっている。						
		棚の上など高いところに物を置いていない。						
	トイレ	水はね等がなく、床がすべらない。						
		個室内の安全が確認できる。						
		流しの周りに陶器・ガラス製品等の危険物がない。						
		消毒薬・洗剤類の保管、安全管理が徹底されている。						
	テラス	床・壁・柵等の破損部分がない。						
		水たまりができないように清掃されている。						
		滑らないように工夫されている。						
		不審者防御策が講じられている。						
		避難路が確保されている。						
	安全避難のための非常用品が常備されている。							
	危険箇所には安全策を講じている。							
	園舎内は、清潔で安全な状態が保たれている。							
	戸には、指を挟まない工夫、安全策を講じている。							

		チェックポイント	1週	2週	3週	4週	5週	備考
園庭	遊具	【各　　部】　身体に触れる部分に鋭利な状態等はないか						
		【落下防止】　落下防止策などにガタツキや変形はないか						
		【支 柱 部】　部材に亀裂、劣化はないか　ぐらつきはないか						
		【基 礎 部】　接地面へ基礎が露出していないか						
		【着地面・周辺】　着地面や遊具周辺に大きな凸凹や石などないか						
		【接 合 部】　ボルトのゆるみや欠落はないか						
		【接 合 部】　接合部の破損はないか						
		【塗装・メッキ】　著しい塗装剥離や退色、サビの発生等はないか						
		【汚れ・遺物】　著しい汚れや落書き、遺物等はないか						
		ブランコの座板は地面から30cm以上あるか						
	不審者の侵入やこどもの飛び出しに注意し出入口の施錠をしている。							
	倉庫の戸はこどもが自由に開閉できない。							
	フェンスネットの破損がなく危険はない。							
	石，ガラスなどの危険なものが落ちていない。							
	樹木の手入れ(害虫，伐採)をしている。							
	砂場の衛生管理(日光，薬物処理)をしている。							
	犬や猫の糞対策等衛生面の具体的配慮している。							
	地面に大きなくぼみはない。							
	水はけがよくなっている。							
プール	こどもが自由に出入りできないようになっている。(施錠など)							
	水をためたままにしていない。(雨上がりなど)							
駐車場	駐車場の安全対策を講じている。(具体的な項目は各施設で設定する)							
その他	園舎周りは、清潔で安全な状態が保たれている。							

年　　月

遊具（園内外）安全点検表２

園長印

★点検チェックは、良好（〇）、改善（×）で示す
★異常があったときは、速やかに園長に連絡し、職員間で共有する

施設名

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	点検者																															
1	ブランコは安全に使えるか																															
2	滑り台は安全に使えるか																															
3	ジャングルジムは安全に使えるか																															
4	鉄棒は安全に使えるか																															
5	総合遊具は安全に使えるか																															
6	うんていは安全に使えるか																															
7	砂場に糞等落ちていないか																															
8	園庭に石，ガラス等危険物はないか																															
9	（雨上がり等）遊具が濡れていないか																															
10	水たまりはできていないか																															
11																																
12																																
13																																
備考																																

年　　月　　保育室安全点検表３

施設名

園長印

★点検チェックは、良好（〇）、改善（×）で示す
★異常があったときは、速やかに園長に連絡し、職員間で共有する

組　　担任名

	項　目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	棚の上に重たいものがのっていないか																															
2	机上に危険物は出ていないか																															
3	窓から身を乗り出せるような物は置いてないか																															
4	床が滑りやすくなっていないか																															
5	床に凹凸やささくれはないか																															
6	手洗い場は清潔で破損はないか																															
7	保育室は整理整頓，清掃されているか																															
8	机，いすに破損，ガタツキ，ささくれはないか																															
9	戸棚，整理棚など倒れやすくなっていないか																															
10	薬品は適切に管理されているか																															
11	掲示板に画鋲の針など残っていないか																															
12	温湿度計の管理はなされているか																															
13	非常口はふさいでないか																															
14	避難路の確保はできているか																															
15	破損したおもちゃ等の確認はされているか																															
コメント欄																																

令和　　年　　月　　日

睡眠チェック表（5分チェック）

施設名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

0歳児

★ 布団は観察しやすく並べる。当日敷いた布団の順番に名前を記載すると午睡チェックしやすい。
★ 部屋は暖め過ぎない（温湿度の確認と適宜換気）

温度	湿度
℃	%

【記入方法】
★ 確認者がわかるように確認者の頭文字を記入し、
仰向けにしたときは頭文字を〇で囲む
◎確認した時　ア　◎仰向けに直した時　㋐
★ 入眠した時間と起床した時間を〇で囲む。
表にない時間は、チェック欄に時間を記入する

★窒息リスクの除去を行い，安全な睡眠環境を整える

□必ず保育者が付き添い、こどもだけにしない
□乳児の顔が見えるように仰向けに寝かせる。
□よだれかけを外し、口の中に異物がないか確認する
□周囲にぬいぐるみ、タオル、ひも状のものを置かない
□ミルクや食べたもの等の嘔吐物がないか確認する
□部屋は暖め過ぎない（温湿度の確認と適宜換気）
□床暖房やホットカーペットは、暖めすぎに注意し、適宜使用する。

★ 睡眠チェックのポイント

・ 十分な観察ができる明るさの確保
・ 名前、顔色、唇の色の確認
・ 呼吸状態の有無（呼吸音、胸の動き）
・ 呼吸の様子（咳、喘鳴、鼻づまり）
・ 体温（体に触れる、発汗）
・ うつぶせになっている子を仰向けになおす

園長印

氏名	7												8												9												10												備考
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
	11												12												13												14												
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
	15												16												17												18												
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	

氏名	7												8												9												10												備考
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
	11												12												13												14												
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
	15												16												17												18												
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	

氏名	7												8												9												10												備考
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
	11												12												13												14												
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
	15												16												17												18												
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	

氏名	7												8												9												10												備考
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
	11												12												13												14												
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
	15												16												17												18												
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	

令和　　年　　月　　日

睡眠チェック表（10分チェック）

施設名

1歳児

★ 布団は観察しやすく並べる。当日敷いた布団の順番に名前を記載すると午睡チェックしやすい．
★ 部屋は暖め過ぎない（温湿度の確認と適宜換気）

温度	湿度
℃	%

【記入方法】
★ 確認者がわかるように確認者の頭文字を記入し、仰向けにしたときは頭文字を〇で囲む
　◎確認した時　ア　　◎仰向けに直した時　㋐
★ 入眠した時間と起床した時間を〇で囲む。表にない時間は、チェック欄に時間を記入する

★睡眠チェックのポイント　～必ず保育者が付き添い、こどもだけにしない～
□十分な観察ができる明るさの確保　　□名前、顔色、唇の色の確認
□呼吸状態の有無（呼吸音、胸の動き）　　□呼吸の様子（咳、喘鳴、鼻づまり）
□体温（体に触れる、発汗）　　□うつぶせになっている子を仰向けになおす

園長印

氏　名	11						12						13						14						15						備　考
	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	
記載例　〇〇 〇〇					㊷	ア	ア	ア	㋐	ア	ア	ア	イ	㋑	イ	イ	イ	イ	イ	⑭							特記事項を記入する				時折咳が出ていた
1																															
2																															
3																															
4																															
5																															
6																															
7																															
8																															
9																															
10																															
11																															
12																															
13																															
14																															
15																															
16																															
17																															
18																															
19																															
20																															

令和　　年　　月　　日

睡眠チェック表（10～15分チェック）

★ 布団は観察しやすく並べる。当日敷いた布団の順番に名前を記載すると午睡チェックしやすい.
★ 部屋は暖め過ぎない（温湿度の確認と適宜換気）

施設名

2歳児

温度	湿度
℃	%

【記入方法】
★ 確認者がわかるように確認者の頭文字を記入し、仰向けにしたときは頭文字を〇で囲む
◎確認した時 ア　◎仰向けに直した時 (ア)
★ 入眠した時間と起床した時間を〇で囲む。表にない時間は、チェック欄に時間を記入する
★ 10分間隔でチェックできず15分間隔になった場合は、時間枠のライン上に記入する

★睡眠チェックのポイント　～必ず保育者が付き添い、こどもだけにしない～
□十分な観察ができる明るさの確保　□名前、顔色、唇の色の確認
□呼吸状態の有無（呼吸音、胸の動き）　□呼吸の様子（咳、喘鳴、鼻づまり）
□体温（体に触れる、発汗）　□うつぶせになっている子を仰向けになおす

園長印

氏　名	11						12						13						14						15						備　考
	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	
記載例　〇〇 〇〇					(45)	ア	ア	ア		ア		ア	イ	(イ)	イ		イ		イ	(12)					特記事項を記入する						時折咳が出ていた
1																															
2																															
3																															
4																															
5																															
6																															
7																															
8																															
9																															
10																															
11																															
12																															
13																															
14																															
15																															
16																															
17																															
18																															
19																															
20																															

3歳児以上

令和　　年　　月　　　　　　　　　組

睡眠チェック表（20分チェック）

施設名

★睡眠チェックのポイント
～必ず保育者が付き添い、
こどもだけにしない～

□十分な観察ができる明るさの確保
□名前、顔色、唇の色の確認
□呼吸状態の有無（呼吸音、胸の動き）
□呼吸の様子（咳、喘鳴、鼻づまり）
□体温（体に触れる、発汗）

★ **布団は観察しやすく並べる。**
★ **温湿度の確認と適宜換気**

【記入方法】
★ 確認者がわかるように確認者は頭文字を記入する。
例） 青木先生が確認した時 → ア
★ 睡眠中の特記事項があれば、時刻と内容を記入する。

園長印

時間				12			13			14			特記事項
日	曜日	温度	湿度	0	20	40	0	20	40	0	20	40	
1	水	23 ℃	60 %		ウ	ウ	ウ	エ	エ	エ			13:00 A子咳込みあり　記載例
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										
		℃	%										

園外保育チェックリスト【　　年　月　日（　）】

チェック項目は
声に出して確認！

クラス＿＿＿＿＿＿＿＿

チェック者名＿＿＿＿＿＿＿＿

	チェック項目	チェック欄
園出発前	天候・職員数及び時間など総合的に判断して園外保育の必要があるのか。	□
	目的地の事前確認、経路確認はしているか。	□
	突発的な行動（状況）に対応できる人員配置であるか。	□
	園長又は主任から許可を受けたか。（こども及び職員の人数や帰園時間）	□
	リーダーを決めたか。	□
	担当児や自身の役割分担を確認し、職員間で共有したか。	□
	携帯電話・防犯ベル・救急用品を持参したか。	□
	こどもの人数確認をしたか。（出発時）	□
目的地到着後	到着時，人数確認を実施したか。	□
	こどもを遊ばせるにあたり，危険な個所は無いか。	□
	常に，こどもの様子や動きに気をつけながら，把握しているか。	□
	園に帰る時間を職員同士で共有しているか。	□
目的地出発前	人数確認を実施したか。	□
	持ち物を忘れていないか。	□
着園時	人数確認を実施したか。	□
	園長又は主任に帰園の報告をしたか。	□

園外保育チェックリスト【　　年　月　日（　）】

チェック項目は
声に出して確認！

クラス＿＿＿＿＿＿＿＿

チェック者名＿＿＿＿＿＿＿＿

	チェック項目	チェック欄
園出発前	天候・職員数及び時間など総合的に判断して園外保育の必要があるのか。	□
	目的地の事前確認、経路確認はしているか。	□
	突発的な行動（状況）に対応できる人員配置であるか。	□
	園長又は主任から許可を受けたか。（こども及び職員の人数や帰園時間）	□
	リーダーを決めたか。	□
	担当児や自身の役割分担を確認し、職員間で共有したか。	□
	携帯電話・防犯ベル・救急用品を持参したか。	□
	こどもの人数確認をしたか。（出発時）	□
目的地到着後	到着時，人数確認を実施したか。	□
	こどもを遊ばせるにあたり，危険な個所は無いか。	□
	常に，こどもの様子や動きに気をつけながら，把握しているか。	□
	園に帰る時間を職員同士で共有しているか。	□
目的地出発前	人数確認を実施したか。	□
	持ち物を忘れていないか。	□
着園時	人数確認を実施したか。	□
	園長又は主任に帰園の報告をしたか。	□

お散歩　園児数確認メモ

年　　月　　日(　　)

☆ **出発前に人数を数えて記載し，場面が変わる時点で，その都度必ず人数を確認しましょう。**

クラス	組
お散歩園児数	人

場面	チェック欄
出発前	
目的地到着時	
活動中	(　:　)
	(　:　)
	(　:　)
※　活動中は，必要に応じて適宜確認しましょう	
目的地出発時	
園到着時	
備考：	

記載例

お散歩　園児数確認メモ

○　年　○　月　○　日(○)

☆ **出発前に人数を数えて記載し，場面が変わる時点で，その都度必ず人数を確認しましょう。**

クラス	○○○　組
お散歩園児数	15　人

場面	チェック欄
出発前	15　人
目的地到着時	15　人
活動中	(10:15)　15　人
	(10:25)　16　人
途中参加(なまえ)	(　:　)　人
※　活動中は，必要に応じて適宜確認しましょう	
目的地出発時	16　人
園到着時	16　人
備考：※途中参加や早退，特記することがあった場合等メモを残す	

お散歩　園児数確認メモ

年　　月　　日(　　)

☆ **出発前に人数を数えて記載し，場面が変わる時点で，その都度必ず人数を確認しましょう。**

クラス	組
お散歩園児数	人

場面	チェック欄
出発前	
目的地到着時	
活動中	(　:　)
	(　:　)
	(　:　)
※　活動中は，必要に応じて適宜確認しましょう	
目的地出発時	
園到着時	
備考：	

お散歩　園児数確認メモ

年　　月　　日(　　)

☆ **出発前に人数を数えて記載し，場面が変わる時点で，その都度必ず人数を確認しましょう。**

クラス	組
お散歩園児数	人

場面	チェック欄
出発前	
目的地到着時	
活動中	(　:　)
	(　:　)
	(　:　)
※　活動中は，必要に応じて適宜確認しましょう	
目的地出発時	
園到着時	
備考：	

お散歩行ってきますカード

施設名

月　日	クラス名	行　先	出発時刻	帰園予定時刻	出発時園児数	職員人数	責任者	携帯持参者（携帯番号）	帰園時刻	帰園時園児数
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人

【園外保育】０，１歳児クラス用　事故防止チェックリスト

○ いつもしている

× していない　または　時々している

１　記入日　　年　月　日
　　記入者名（　　）
２　記入日　　年　月　日
　　記入者名（　　）
３　記入日　　年　月　日
　　記入者名（　　）
４　記入日　　年　月　日
　　記入者名（　　）

【散歩カー、避難車について】		1	2	3	4	備考
1	事前にタイヤ、ブレーキ、手すり、着座位置等の安全確認を行う					
2	雨などで濡れたり汚れたりしていたら拭きとる					
3	園児の乗り降りの際は安全な場所でストッパーをかけ、周囲の状況に注意して複数の職員で安全に行う					
4	園児が手すりのジョイント部分などに手指を挟まないよう、常に注意する					
5	使用時は常に複数の職員で周囲に気を配り、安全面に注意する					
6	走行は歩く速度よりゆっくりにし、先の見通しを持つ					
7	段差などの道路状況を把握し、園児に危険のないよう複数の職員で走行の対応を行う					
8	乗車している園児のみならず、徒歩やおんぶの園児を含めた全体の様子を常に把握し、一人一人に合わせた保育を行う					

チェックリストの活用例

「園外保育チェックリスト」「年齢別事故防止チェックリスト」の活用方法について、以下に活用例を示しますので参考にしてください。事故防止の取組みは、園や地域の実情に合わせて行うことで効果があることから、画一的な使用方法は示しません。各園で取り組む内容を検討することそのものが、職員間の事故防止の意識を高めることにつながります。

（例１）年度初めに全職員でチェックリストの内容を確認し、「安全な園外保育の実施」「日常の保育における留意点」について認識を共有する。また、他に必要な項目がないか検討し追加する。

（例２）年度内に３～４回、職員が個別にチェックリストに取り組み、その結果をクラスごとに取りまとめ、クラスとしての課題を把握し取組みの改善につなげる。

（例３）年度内に３～４回、クラスごとにチェックリストに取り組み、その結果を園全体で取りまとめ、組織としての課題を把握し取組みの改善につなげる。

（例４）園内でヒヤリハットや事故が発生したときに、全職員でチェックリストの内容を確認し、必要な取組みが実施されていたかを検証し改善を図る。

※例1～4の活用方法を組み合わせて実施すると効果的です。また、園ですでに同様の取組みが実施されている場合は重複して行う必要はありません。

【園外保育】２～５歳児クラス用　事故防止チェックリスト

○ いつもしている

× していない　または　時々している

１　記入日　　年　月　日
　　記入者名（　　）
２　記入日　　年　月　日
　　記入者名（　　）
３　記入日　　年　月　日
　　記入者名（　　）
４　記入日　　年　月　日
　　記入者名（　　）

【事前】		1	2	3	4	備考
1	園外保育活動のねらいを明確にする					
2	目的地の事前調査、打ち合わせ、事故防止対策などを十分検討し全職員が把握する					
3	事故発生時の連絡方法を密にしておく					
4	救急医薬品用具、緊急連絡簿、携帯電話、防犯ブザーや笛、着替え、ティッシュ、ビニール袋など、安全及び緊急に備えての準備をしっかりとする					
5	行き先は年齢や発達段階に合った場所を選ぶ					
6	公園等は園に比べ安全性が十分でないことを理解している					
7	引率は2名以上とし、職員が欠席の時や園児の状態によって実施を見合わせる					
8	慣れている遊び場であっても気象条件や時期などにより変化があるので、常に状況把握をする					
9	戸外では行動範囲が広くなり、予想できない事態が発生する恐れがあることを認識している					

【出発時】						
1	目的、行き先などの計画は、園長の許可を得て実施する					
2	当日の気象状況をしっかり把握し、あいまいな自己判断で行動しない					
3	出発前には必ず人数確認、こどもの状態、目的、行き先、道順、予定（所要）時間、引率者人数などを園長に報告し、所在を明らかにしておく					
4	出発時に園外保育報告ノート等に記入し、詳細がわかるようにしておく					
5	園児の健康状態、情緒面などを十分に把握する					
6	職員は携帯電話を所持する					
7	園児の足に合った靴、体に合った衣類かを確認する					
8	靴を正しく履いているか常に確認する					

【歩行中】

1	歩行中は常に人数確認をする					
2	なるべく歩道のある所を歩く。少し遠くても横断歩道を選ぶなど交通ルールを守り、安全歩行に気を付ける					
3	歩道に危険なものがないか注意する					
4	道路では園児の飛び出しに注意する					
5	列は短くし、適当な間隔を取る					
6	前を見て歩くように促し、列全体のスピードを考えて誘導する					
7	先頭保育者は、目的地までの先々の状態に見通しを持って、安全経路を選ぶ。					
8	先頭保育者は交通の実施指導をしながら誘導する					
9	先頭保育者は、後に続く全体の安全を確認する					
10	中間保育者は、適当な間隔に位置して、必要に応じて移動しながら適切な安全指導をする					
11	中間保育者は、道路を横断する場合に左右確認の指導と歩行の安全をしっかり監視する					
12	後尾保育者は最後尾に位置し、全園児の安全を確認する					
13	後尾保育者は中間保育者がいない時には中間保育者の役割もする					
14	交通ルールなどの安全指導をする					
15	信号待ちの時は周囲の状況に気を配り、危険を察知したら適切な対応を取ることを意識する					
16	信号を渡る時は列を短くし、安全、迅速に渡るようにする					
17	都合で行き先の変更があった時は、その都度園に連絡を入れる					
18	突発的に起こった事態に、速やかに対処する					
19	色々な不慮の事故、災害などを想定し、もし事故があった時は場を離れずこどもを見守りながら、速やかに連絡をする					
20	二人ずつ手をつないでいる時は道路条件に応じて手を離し、異年齢の場合は大きい子が車道側になるように手をつなぎ、小さい子に合わせて歩くようにする					
21	手をつないで走る、階段の上り下りをすると転倒時に手がつきにくいことを話し指導している					
22	坂道は勢いがつくことを保育者が理解し、指導している					
23	フェンスや門など危険な高いところに上らないように指導している					
24	こどもは目的地が近づくと早く行こうとして走る、早足になるなどして危険であることを認識している					
25	動物、危険物（自動車、バイク、自転車、看板等）に触らないように気をつけている					

26	枝、棒切れ、BB弾などを拾ったり、園に持ち帰ったりしないよう指導している					
27	犬や動物は噛むことがある、鶏は突くことがあるなどこどもに教え、注意している					
28	蜂の巣がないか、点検している					
29	蜂に刺激を与えると刺されることを教えている					
30	保育者が正しい歩行態度で実地指導をし、園児に交通安全の習慣づけを十分に行う					

【目的地で】

1	戸外において随時、人数確認をする					
2	常に安全への配慮を怠らず、全体を見ている保育者がいて全園児の行動と安全を確認する					
3	目的地の現状に合わせ、遊びの内容や、安全体制、役割分担をしっかりと再確認する					
4	突発的な行動を予測し、状況に応じて臨機応変に対応できる体制を整えておく					
5	年齢、発達段階に合った固定遊具であるか、雨などで滑りやすくなっていないか等、点検する					
6	石や砂などを投げてはいけないことを指導している					
7	カエルを触った手で目や鼻、口をこすらないように教え注意している					
8	滑り台やブランコなど、固定遊具の遊び方の決まりを守らせるようにしている					
9	滑り台の上でふざける、危険な遊びをする等のないようにしている					
10	滑り台や鉄棒、登り棒は傍らで指導し、保育者がいない時は使用しないよう指導する					
11	園外保育先のトイレは不審者に注意し、必ず保育者が同行する					

【帰園後】

1	戸外から帰った後の手洗い、うがい、水分補給を指導している					
2	到着時に園外保育報告ノート等に詳細を記録する					

ヒヤリ・ハットの記録

施設名

園児名		クラス	組	男・女	記入者名	
発生時	年　月　日（　）　午前・午後　時　分					
発生場所	保育室　遊戯室　テラス　玄関　園庭　道路　園外保育先 その他（　）					
部位	頭　顔面（眼　鼻　耳　口腔　歯）　その他の顔面（　） 上肢　下肢　体幹（頚　胸　腹　臀部）　その他の体幹（　）					

体験したこと				発生時の状況及び対応
1	転倒	1	押される	
2	ぶつかる	2	蹴られる	
3	転落	3	噛まれる	
4	飛び降りる	4	引っ張られる	
5	挟む	5	ぶたれる	
6	火傷	6	ふざける	
7	ひねる	7	ひっかかれる	そのときの職員配置及び状況
8	切る	8	けんか	
9	誤　飲（　）	9		
10	遊　具（　）	10		

【略図】

保護者への対応

どうすれば防止できたか

その後，改善工夫したこと

閲覧（印またはサイン）

0歳児クラス用　事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
2　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
3　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
4　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）

【職員が留意する内容】		1	2	3	4	備考
1	使用するベビー用品は、こどもの年齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書をよく読んでいる					
2	ベビーベッドの柵とマットレス、敷布団の間にすき間がないことを確認している					
3	ベビーベッドの柵は必ず上げロックされているか確認している					
4	ベビーベッドの柵には、布をかけたりしていない					
5	こどもの周囲に角の鋭い家具、おもちゃ、箱等がないか必ず確認し、危険な物はすぐに片付けている					
6	ドアや戸のすき間、コンセントにこどもの指が入らないようにガードをして注意している					
7	室内・室外で角や鋭い部分にはガードをしている					
8	こどもがお座りをする側に、角や縁の鋭い物はないようにしている					
9	こども用の椅子は、安定のよい物を使用している					
10	こどもが暖房器具に直接触れてやけどをしないように対策している					
11	バケツやこども用プール等に、水をためておかない					
12	消毒液や洗剤、薬品はこどもの手の届かないところに置いている					
13	ビニール袋等は、窒息の危険があることを意識し管理している					
14	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
15	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる（クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある）					
16	よだれかけを外してから、こどもを寝かせている					
17	お昼寝前は、こどもの口の中に物が入っていないか確認する					
18	こどもを寝かせる時は、あお向けに寝かせ、呼吸状態を確認し、うつぶせになっている場合はあお向けに変えている					
19	おんぶして寝た子を布団に寝かせる時、 おんぶひもが首にからまないようにはずしている					
20	ミルクを飲ませた後は、ゲップをさせてから寝かせている					

21	寝ているこどもの上に、物が落ちてこないように安全を確認している					
22	おむつの取り替え等で、こどもを寝かせたままにして側を離れることはない					
23	おむつ交換台を使用するときは、落下防止のベルトをしている					
24	こどもを抱いている時、つまずかないよう自分の足元に注意している					
25	こどもを抱いている時、あわてて階段をおりることはない					
26	こどもを抱いている時、ドアや戸を勢いよく閉めることがないようにしている					
27	こどもを抱いている時、危険な物は持たないようにしている					
28	ドアや戸の近くで遊ばせないようにしている					
29	口に入れやすい細かいものが室内に落ちていないか注意している					
30	トイレットペーパーの芯を通る大きさのものは危険だと理解している					
31	転倒することがあるので、周囲のおもちゃ等に注意している					
32	つかまり立ちをしたり、つたい歩きをする時は、側に付き転倒を防いでいる					
33	椅子に座っていて急に立ち上がったり、バランスを崩し倒れることがないように注意している					
34	口に物をくわえて歩行させないようにしている					
35	こどもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまずかないように注意している					
36	こどもの腕を、保育士や年上のこどもが強く引っぱることがないようにしている					
37	沐浴中のこどもから目を離すことはない					
38	ベビーカーに乗せる時は深く座らせ、安全ベルトを使用し、側から離れないようにしている					
39	おんぶはこどもが落下しないように二人で行っている					
40	おんぶして動く時、戸や壁にこどもの頭がぶつからないようにしている					
41	床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
42	犬等の動物は噛むことがあるので注意している					

1歳児クラス用　事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
〇 だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
2　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
3　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
4　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）

【職員が留意する内容】		1	2	3	4	備考
1	遊具の安全を確認している					
2	室内･室外で角や鋭い部分にはガードをしている					
3	ロッカーや棚は倒れないよう転倒防止策を行っている					
4	ドアや戸のすき間、コンセントに手を入れないようにガードをつけ注意している					
5	室内は整理整頓を行い、使用した遊具や絵本はすぐに収納場所に片付けている					
6	ハサミやカッター等の刃物は、使用したら必ず片付けている					
7	口の中に入ってしまう小さなおもちゃ等は、手の届くところに置くことがないように注意している					
8	ビニール袋等は、窒息の危険があることを意識し管理している					
9	こどもが暖房器具に直接触れてやけどをしないように対策している					
10	バケツやこども用プール等に、水をためておかない					
11	消毒液や洗剤、薬品はこどもの手の届かないところに置いている					
12	床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
13	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
14	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる（クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある）					
15	こどもの遊んでいる位置を確認している					
16	すべり台やブランコにのる時は、側に付き落下しないようにしている					
17	おもちゃを持ったまま、すべり台や固定遊具で遊ばせることがないように注意している					
18	こどもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまずかないように注意している					
19	階段や玄関等の段差のあるところに、こどもが一人で行くことはないようにしている					
20	階段を上り下りする時は、こどもの下側を歩くか、手をつないでいる					

21	こどもが大きな物を持つ時は、付き添い落とさないよう支える等している					
22	こどもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
23	肘内障を起こしやすいこどもは、職員全員が把握している					
24	こども同士手をつないでいる時、引っ張り合い肘内障になることがあるので、注意している					
25	噛みつきやひっかきの起きやすい年齢であることを理解し、すぐ防ぐことができるよう注意している					
26	手に怪我をしていたり、ふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいので注意している					
27	ドアや戸を開閉する時、手をはさまないようにこどもの手や足の位置を確認している					
28	トイレットペーパーの芯を通る大きさのものは危険だと理解している					
29	転倒することがあるので、周囲のおもちゃ等に注意している					
30	食べ物のかたさや、大きさ、量等を考えて、詰まらせることのないように注意して食べさせている					
31	こどもが口や鼻や耳に、小石、ビーズ、粘土等の小さい物を入れて遊ばないように注意している					
32	公園等は保育所施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している。					
33	砂を口に入れたり、目に誤って入らないように気をつけている					
34	散歩の時はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意し、途中随時人数確認をしている					
35	水遊びをする時は、必ず職員が二人以上付き添い、目を離さず溺水を防いでいる					
36	おんぶはこどもが落下しないように二人で行っている					
37	おんぶして動く時、戸や壁にこどもの頭がぶつからないようにしている					
38	おんぶして寝た子を布団に寝せる時、 おんぶひもが首にからまないようにはずしている					
39	犬等の動物は噛むことがあるので注意している					

【職員がこどもと関わる時に留意する内容】

1	すべり台に多くのこどもが集まり、押し合い等しないよう教えながら遊ばせ、注意している					
2	揺れているブランコには近づかないように教え、注意している					
3	椅子に立ち上がったり、椅子をおもちゃにして遊ばないように教え、注意している					
4	こどもが引き出しやドア・戸を開け閉めして遊ばないように教え、注意している					
5	フォーク等をくわえて立ち歩かないように教え、注意している					
6	ふざけすぎて、ぶつかったり転倒しないように注意している					
7	落ち着いて便器に座るように補助をしている					
8	道路では飛び出しは危険なことを教え、注意している					

2歳児クラス用　事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
2　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
3　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
4　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）

【職員が留意する内容】		1	2	3	4	備考
1	遊具の安全を確認している					
2	室内･室外で角や鋭い部分にはガードをしている					
3	粘土やブロック等年齢に適したものを提供している					
4	ロッカーや棚は倒れないように、転倒防止策を行っている					
5	運動用具を使用した後はそのままにせず、必ず片付けている					
6	室内は整理整頓を行い、使用した遊具や絵本はすぐに収納場所に片付けている					
7	ハサミやカッターなどの刃物は、使用したら必ず片付けている					
8	暖房器具はこどもが直接触れてやけどをしないよう対策している					
9	ビニール袋等は、窒息の危険があることを意識し管理している					
10	床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
11	薬や洗剤、消毒液はこどもの手の届かないところに置いている					
12	バケツやこども用プールに水を溜める時は、こどもが自由に出入りできないようにしている					
13	散歩はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意している					
14	年齢に合った遊具か、雨等で滑りやすくなっていないか等点検して遊ばせている					
15	ジュースの空き缶やタバコ等危険な物がある時は、触らないように指導し、危険な物に気づいたら片付けている					
16	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
17	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる（クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある）					
18	こどもの遊んでいる位置を確認している					
19	固定遊具で遊ぶ時は、横に付き添い、危険のないようにしている					
20	フードやひも付き衣服は引っかかる危険があるため園では着用しないよう保護者に協力を求めている					

21	靴は足に合っているか、正しく履けているかを確認している					
22	階段や玄関等の段差のあるところに、こどもが一人で行かないように注意している					
23	室内では衝突を起こさないように、人数やルールを考えて遊びを工夫している					
24	午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を十分に把握している					
25	こどもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
26	肘内障を起こしやすいこどもは、職員全員が把握している					
27	噛みつきやひっかきの起きやすい年齢であることを理解し、すぐ防ぐことができるよう注意している					
28	両手に玩具を持つ等、手がふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいので注意している					
29	ドアや戸を開閉する時、こどもの手や足の位置を確認している					
30	口の中に入ってしまう小さなおもちゃを、手の届くところに置くことがないように注意している					
31	トイレットペーパーの芯を通る大きさのものは危険だと理解している					
32	食べ物のかたさや、大きさ、量等を考えて、詰まらせることのないように注意して食べさせている					
33	こどもが口や鼻や耳に、小石、ビーズ、粘土等の小さい物を入れて遊ばないように注意している					
34	水遊びをする時は、監視に専念できる職員を必ず一人置き、こどもの人数に応じた職員数で目を離さず溺水を防いでいる					
35	散歩の時は随時、人数確認をしている					
36	散歩の時、目的地に近づくと早く行こうとして、走ったり早足になり危険であることを、職員は理解している					
37	公園では保育所の施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している					
38	三輪車等は、バランスを崩すと転倒しやすいことを理解して遊ばせている					
39	こどもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまずかないように注意している					
40	こどもが大きな物を持つ時は、段差がないか等床や地面の状態に注意している					
41	階段を上り下りする時は、こどもの下側を歩くか、手をつないでいる					

【職員がこどもと関わる時に留意する内容】

1	おもちゃを持ったまま、固定遊具で遊ばないよう教えながら、注意して遊ばせている					
2	すべり台の正しい遊び方を教え、上でふざけたり、逆さ登りをしないように注意している					

3	こども同士手をつないでいる時、引っ張り合い肘内障になることがあるので、引っ張らないように教えながら注意して遊ばせている					
4	揺れているブランコには近づかないように教え、注意している					
5	シャベル等を取り合ったり、長い物を振り回したりすると危険なことを教え、砂場での安全な遊び方を指導している					
6	テラス等は砂で滑りやすいため、こどもに注意するよう教えている					
11	椅子に立ち上がったり、揺らして遊ぶことがないよう正しい使用方法を教えている					
12	こどもが引き出しやドア・戸を開け閉めして遊ばないよう教え、注意している					
13	フォーク等をくわえて立ち歩くことがないように教え、注意している					
14	先の尖った物を持っている時は、振り回したりしないように指導している					
15	小動物や昆虫、植物に触れる時は、関わり方や危険について教え、側について注意している					
16	毛虫、ヘビ、ハチ、ムカデ、カミキリムシなどは、触れないように注意している					
17	道路への飛び出しは危険なことを教え、注意している					
18	手をつないで走ると、転んだ時に手がつきにくいことを教えながら注意して遊ばせている					
19	犬等の動物との関わり方を教え、危険がないように注意している					

3歳児クラス用　事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
2　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
3　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
4　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）

【職員が留意する内容】		1	2	3	4	備考
1	こどもの遊んでいる遊具や周りの安全を確認している					
2	粘土やブロック等年齢に適したものを提供している					
3	ロッカーや棚は倒れないように、転倒防止策を行なっている					
4	運動用具を使用した後はそのままにせず、必ず片付けている					
5	室内は整理整頓を行い、使用した物はすぐに収納場所に片付けている					
6	ハサミは正しい使い方をさせ、使用したら必ず片付けている					
7	暖房器具はこどもが直接触れてやけどをしないように対策している					
8	床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
9	薬や洗剤、消毒液はこどもの手の届かないところに置いている					
10	散歩はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意している					
11	年齢に合った遊具か、雨等で滑りやすくなっていないか等点検して遊ばせている					
12	ジュースの空き缶やタバコ等危険な物がある時は、触らないように指導し、危険な物に気づいたら片付けている					
13	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
14	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる（クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある）					
15	固定遊具で遊ぶ時は、横に付き添い、危険のないようにしている					
16	フードやひも付き衣服は引っかかる危険があるため園では着用しないよう保護者に協力を求めている					
17	園庭に耳や鼻に入れやすい大きさのものや危険なものが落ちていないか常に注意している					
18	園庭の状況に合った遊び方を選び、こどもの行動を常に確認できるようにしている					
19	こどもが大きな物や重い物を持つ時は、足元の安全に気を配っている					
20	靴は足に合っているか、いろいろな活動に適しているか確認している					

21	午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を十分に把握している					
22	こどもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
23	肘内障を起こしやすいこどもは、職員全員が把握している					
24	水遊びをする時は、監視に専念できる職員を必ず一人置き、こどもの人数に応じた職員数で目を離さず溺水を防いでいる					
25	散歩の時は随時、人数確認をしている					
26	歩道に危険な物がないか注意している					
27	散歩の時、目的地が近づくと早く行こうとして、走ったり早足になり危険であることを、職員は理解している					
28	前を見て歩くよう促し、列全体のスピードを考え誘導している					
29	公園では保育所の施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している					
30	室内では衝突を起こしやすいので、人数やルールを考えて遊びを工夫している					
31	三輪車等は、バランスを崩して転倒しやすいことを理解して遊ばせている					

【職員がこどもと関わる時に留意する内容】

1	室内･室外で角や鋭い部分には必要に応じてガードをすると共に、こどもに危険なことを教えている					
2	すべり台やブランコ、ジャングルジム等、遊具の遊び方のきまりを教え、守って遊んでいるか注意している					
3	おもちゃを持ったり、かばんをかけたまま固定遊具で遊ぶことがないように教えている					
4	すべり台の上でふざけたり、逆さ登りをするのは危険なことを教えている					
5	揺れているブランコには近づかないように教えている					
6	シャベル等を取り合ったり、長い物を振り回したりすると危険なことを教え、砂場での安全な遊び方を指導している					
7	テラス等は砂で滑りやすいため、注意するよう教えている					
8	鉄棒の近くで遊ぶと勢いあまって衝突することがあることを理解し、注意しながら遊ばせている					
9	フェンスや門等危険な高いところに登らないように指導している					
10	こども同士手をつないでいる時、引っ張り合って肘内障になることがあることを教え、注意して遊ばせている					
11	両手に玩具を持つ等手がふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいことを教え、注意している					
12	椅子に立ち上がったり、揺らして遊ぶことがないよう正しい使用方法を教えている					
13	ハサミの使用時、職員は側につき、座って使うように教えている					
14	箸や歯ブラシ等をくわえて走り回ることがないように教え、注意している					

15	食べ物の形や、大きさ、量等を考えて、詰まらせることのないよう注意して食べさせている					
16	小石、ビーズ、粘土等小さい物を口や鼻、耳に入れて遊んでいないか注意している					
17	先の尖った物を持っている時は、人に向けたり、振り回したりしないように指導している					
18	トイレや手洗い場では走らないように教えている					
19	道路への飛び出しは危険なことを教え、注意している					
20	手をつないで走ると、転んだ時に手がつきにくいことを教えながら注意して遊ばせている					
21	石を人や物に向かって投げてはいけないことを指導している					
22	小動物や昆虫、植物に触れる時は、関わり方や危険について教え、側について注意している					
23	毛虫、ヘビ、ハチ、ムカデ、カミキリムシなどは、触れないように注意している					
24	犬等の動物との関わり方を教え、危険がないように注意している					

4歳児クラス用　事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
2　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
3　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
4　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）

【職員が留意する内容】		1	2	3	4	備考
1	こどもの遊んでいる遊具や周りの安全を確認している					
2	ロッカーや棚は倒れないように、転倒防止策を行っている					
3	運動用具を使用した後はそのままにせず、必ず片付けている					
4	室内は整理整頓を行い、使用した物はすぐに収納場所に片付けている					
5	ハサミは正しい使い方をさせ、使用したら必ず片付けている					
6	暖房器具はこどもが直接触れてやけどをしないように対策している					
7	床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
8	薬や洗剤、消毒液はこどもの手の届かないところに置いている					
9	散歩はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意している					
10	年齢に合った遊具か、雨等で滑りやすくなっていないか等点検して遊ばせている					
11	ジュースの空き缶やタバコ等危険な物がある時は、触らないように指導し、危険な物に気づいたら片付けている					
12	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
13	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる（クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある）					
14	固定遊具で遊ぶ時は、横に付き添い、危険のないようにしている					
15	フードやひも付き衣服は引っかかる危険があるため園では着用しないよう保護者に協力を求めている					
16	園庭に耳や鼻に入れやすい大きさのものや危険なものが落ちていないか常に注意している					
17	園庭の状況に合った遊び方を選び、職員はこどもの行動を常に確認できるようにしている					
18	こどもが大きな物や重い物を持つ時は、足元の安全に気を配っている					
19	靴は足に合っているか、いろいろな活動に適しているか確認している					
20	午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を十分に把握している					

21	こどもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
22	肘内障を起こしやすいこどもは、職員全員が把握している					
23	水遊びをする時は、監視に専念できる職員を必ず一人置き、こどもの人数に応じた職員数で目を離さず溺水を防いでいる					
24	散歩の時は随時、人数確認をしている					
25	歩道に危険な物がないか注意している					
26	散歩の時、目的地が近づくと早く行こうとして、走ったり早足になり危険であることを、職員は理解している					
27	前を見て歩くよう促し、列全体のスピードを考え誘導している					
28	公園では保育所の施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している					

【職員がこどもと関わる時に留意する内容】

1	室内･室外の角や鋭い部分にはガードをすると共に、こどもに危険なことを教えている					
2	すべり台やブランコ、ジャングルジム等、遊具の遊び方のきまりを教え、守って遊んでいるか注意している					
3	おもちゃを持ったり、かばんをかけたまま固定遊具で遊ぶことがないように教えている					
4	すべり台の上でふざけたり、逆さ登りをするのは危険なことを教えている					
5	揺れているブランコには近づかないように教えている					
6	登り棒の登り方、降り方を教え、付き添い、落下等がないようにしている					
7	シャベル等を取り合ったり、長い物を振り回したりすると危険なことを知らせ砂場での安全な遊び方を教えている					
8	テラス等は砂で滑りやすいため、注意するよう教えている					
9	鉄棒の近くで遊ぶと勢いあまって衝突することがあることを理解し、注意しながら遊ばせている					
10	三輪車の足掛け乗りやスクーターはスピードがつくと転倒しやすいことを教え、注意して遊ばせている					
11	フェンスや門等、危険な高いところに登らないように指導している					
12	室内では衝突を起こさないように見守り、人数やルールを考えて遊ぶように教えている					
13	こども同士手をつないでいる時、引っ張り合って肘内障になることがあることを教え、注意して遊ばせている					
14	両手に玩具を持つ等手がふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいことを教え、注意している					
15	椅子に立ち上がったり、揺らして遊ぶことがないよう正しい使用方法を教えている					

16	箸や歯ブラシ等をくわえて走り回ることがないように注意している					
17	給食で魚を食べる時は骨に注意するように伝え、食べ方を指導している					
18	小石、ビーズ、粘土等小さい物を口や鼻、耳に入れて遊んでいないか注意している					
19	先の尖った物を持っている時は、人に向けたり、振り回したりしないように指導している					
20	トイレや手洗い場では走らないように教えている					
21	道路への飛び出しは危険なことを教え、注意している					
22	手をつないで走ると、転んだ時に手がつきにくいことを教えながら注意して遊ばせている					
23	下り坂は勢いがつくため注意するようにこどもへ教えている					
24	石を人や物に向かって投げてはいけないことを指導している					
25	小動物や昆虫、植物に触れる時は、関わり方や危険について教え、側について注意している					
26	毛虫、ヘビ、ハチ、ムカデ、カミキリムシなどは、触れないように注意している					
27	犬等の動物との関わり方を教え、危険がないように注意している					

5歳児クラス用　事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
2　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
3　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）
4　記入日　　年　月　日
　記入者名（　　）

【職員が留意する内容】		1	2	3	4	備考
1	こどもの遊んでいる遊具や周りの安全を確認している					
2	ロッカーや棚は倒れないように、転倒防止策を行なっている					
3	運動用具を使用した後はそのままにせず、必ず片付けている					
4	室内は整理整頓を行い、使用した物はすぐに収納場所に片付けている					
5	ハサミは正しい使い方をさせ、使用したら必ず片付けている					
6	暖房器具はこどもが直接触れてやけどをしないように対策している					
7	床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
8	薬や洗剤、消毒液はこどもの手の届かないところに置いている					
9	散歩はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意している					
10	年齢に合った遊具か、雨等で滑りやすくなっていないか等点検して遊ばせている					
11	ジュースの空き缶やタバコ等危険な物がある時は、触らないように指導し、危険な物に気づいたら片付けている					
12	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
13	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる（クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある）					
14	固定遊具で遊ぶ時は、横に付き添い、危険のないようにしている					
15	フードやひも付き衣服は引っかかる危険があるため園では着用しないよう保護者に協力を求めている					
16	園庭に耳や鼻に入れやすい大きさのものや危険なものが落ちていないか常に注意している					
17	園庭の状況に合った遊び方を選び、職員はこどもの行動を常に確認できるようにしている					
18	こどもが大きな物や重い物を持つ時は、足元の安全に気を配っている					
19	靴は足に合っているか、いろいろな活動に適しているか確認している					
20	午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を十分に把握している					

21	こどもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
22	肘内障を起こしやすいこどもは、職員全員が把握している					
23	水遊びをする時は、監視に専念できる職員を必ず一人置き、こどもの人数に応じた職員数で目を離さず溺水を防いでいる					
24	散歩の時は随時、人数確認をしている					
25	歩道に危険な物がないか注意している					
26	散歩の時、目的地が近づくと早く行こうとして、走ったり早足になり危険であることを、職員は理解している					
27	前を見て歩くよう促し、列全体のスピードを考え誘導している					
28	公園では保育所の施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している					

【職員がこどもと関わる時に留意する内容】

1	室内･室外の角や鋭い部分にはガードをすると共に、こどもに危険なことを教えている					
2	縄跳びの縄は使用後片付けるように教えている					
3	すべり台やブランコ、ジャングルジム等、遊具の遊び方のきまりを教え、守って遊んでいるか注意している					
4	おもちゃを持ったり、かばんをかけたまま固定遊具で遊ぶことがないように教えている					
5	すべり台の上でふざけたり、逆さ登りをするのは危険なことを教えている					
6	揺れているブランコには近づかないように教えている					
7	登り棒の登り方、降り方を教え、付き添い、落下等がないようにしている					
8	シャベル等を取り合ったり、長い物を振り回したりすると危険なことを知らせ砂場での安全な遊び方を教えている					
9	テラス等は砂で滑りやすいため、注意するよう教えている					
10	鉄棒の近くで遊ぶと勢いあまって衝突することがあることを理解し、注意しながら遊ばせている					
11	三輪車の足掛け乗りやスクーターはスピードがつくと転倒しやすいことを教え、注意して遊ばせている					
12	フェンスや門等危険な高いところに登らないように指導している					
13	室内では衝突を起こさないように見守り、人数やルールを考えて遊ぶように教えている					
14	こども同士手をつないでいる時、引っ張り合って肘内障になることがあることを教え、注意して遊ばせている					
15	両手に玩具を持つ等手がふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいことを教え、注意している					
16	椅子を後ろに揺らしたり、後ろ向きに座らないよう、正しい使用法を教えている					

17	箸や歯ブラシ等をくわえて走り回ることがないように指導している					
18	給食で魚を食べる時は骨に注意するように伝え、食べ方を指導している					
19	調理活動中に包丁を使用する時は危険なことを教え、常に付き添い注意している					
20	先の尖った物を持っている時は、人に向けたり、振り回したりしないように指導している					
21	トイレや手洗い場では走らないように教えている					
22	道路への飛び出しは危険なことを教え、注意している					
23	手をつないで走ると、転んだ時に手がつきにくいことを教えながら注意して遊ばせている					
24	下り坂は勢いがつくため注意するようにこどもへ教えている					
25	石を人や物に向かって投げてはいけないことを指導している					
26	小動物や昆虫、植物に触れる時は、関わり方や危険について教え、側について注意している					
27	毛虫、ヘビ、ハチ、ムカデ、カミキリムシなどは、触れないように注意している					
28	犬等の動物との関わり方を教え、危険がないように注意している					

緊急時の役割分担

管理者が到着するまで
リーダー代行となる

管理・監督者（園長など）

- ☐ 現場に到着次第、リーダーとなる
- ☐ それぞれの役割の確認および指示
- ☐ エピペン®・AEDの使用や心肺蘇生

発見者「観察」

- ☐ こどもから離れず観察および症状の記録
- ☐ 助けを呼び人を集める（大声または、ほかのこどもに呼びに行かせる）
- ☐ 職員A、Bに「準備」「連絡」を依頼
- ☐ エピペン® ・ AEDの使用や心肺蘇生

職員A「準備」

- ☐ エピペン®・AEDの準備
- ☐ 症状の記録（随時）
- ☐ エピペン®やAED・心肺蘇生の介助

＊必要に応じて「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」や個人カード等を持ってくる

職員B「連絡」

- ☐ 救急車を要請する（119番通報）
- ☐ 管理者を呼ぶ
- ☐ 保護者への連絡
- ☐ さらに人を集める

職員C「その他」

- ☐ 他のこどもへの対応
- ☐ 救急車の誘導

※救急隊が到着したら、報告しましょう。

※職員Cがいない場合も予想できます。
Cがいない場合を想定して、A・Bの職員で対応できるようにしましょう。

「救急車の呼び方」
119番通報





火事のとき
「火事です」

救急のとき
「救急です」

現在の住所を伝える

新潟市　　区

建物名

火災の状況を伝える

「どこが燃えているか」
「施設内にいる人の状況」
　〇歳児〇名　職員〇名
「避難状況」
　〇〇に避難
　ケガ人〇名

病気，けがの状況を伝える

「いつ」
「どこで」
「だれが」
「どうして」
「現在どのような状態か」
＊エピペンⓇの処方やエピペンⓇの使用の有無を伝える

目標となるものを伝える

近くに

があります

連絡者名 / 連絡先を伝える

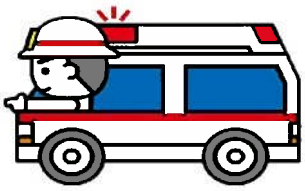
通報している人の名前

119番通報後も
連絡可能な電話番号

＊向かっている救急隊から，その後の状態確認等のため電話がかかってくることがある
通報時に伝えた連絡先の電話は，常につながるようにしておく
その際，救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く



病院緊急連絡先



救 急 車 … 119

保育園の住所

電話番号

	病院名	電話番号	診療時間･休診日
小児科			
整形外科			
歯　科			
眼　科			
内　科			
皮膚科			
耳鼻咽喉科			
脳外科			
総合病院			

※ 休診日の確認と，その時の対応を事前に確認しておきましょう
※ 迷った時は，受診しましょう

タクシー会社 ☎ ○○○-○○○○

様式1
ver.6
（表面）

教育・保育施設等事故報告書
（重大事故）

基本情報					
報告自治体 （都道府県・市区町村）			施設・事業所名称		
報告回数			施設・事業所所在地		
第1報年月日			施設・事業所代表者等		
続報年月日			施設・事業所設置者等 （社名・法人名・自治体名等）		
施設種別			施設・事業開始年月日 （開設、認可、事業開始等）		
事業種別			認可・認可外の区分		

事故に遭ったこどもの情報				
こどもの年齢（月齢） （放課後児童クラブは年齢のみ選択）			こどもの性別	
施設入所年月日 （入園年月日、事業利用開始年月日等）			所属クラス等 （放課後児童クラブはこどもの学年を選択）	
特記事項 （事故と因子関係がある持病、アレルギー、既往症、発育・発達状況等）				

事故発生時の状況								
事故発生年月日				事故発生時間（帯）				
事故発生場所				事故発生クラス等				
事故発生時のこどもの人数			事故発生時の教育・保育等従事者数			うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員・助産師等		
事故発生時のこどもの人数の内訳 （異年齢構成選択時）	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	学童	その他
事故発生時の状況								
事故の誘因								
事故の転帰								
（死亡の場合）死因								
（負傷等の場合）受傷部位								
（負傷等の場合）負傷状況								
診断名、病状等	診断名							
	病状							
	病院名							
事故の発生状況 （当日登園時からの健康状況、発生後の処置を含めて可能な限り詳細に記載。第1報で可能な範囲で記載し、第2報以降で修正。）								
事故発生後の対応 （報道発表を行う（行った）場合にはその予定（実績）。第2報以降で追記。）								

教育・保育施設等事故報告書
（重大事故）

ver.6
（裏面）

ソフト面					
事故防止マニュアル		具体的内容			
事故防止に関する研修		実施頻度（回／年）		具体的内容	
職員配置		具体的内容			
その他の要因・分析・特記事項					
改善策【必須】					

ハード面					
施設の安全点検		実施頻度（回／年）		具体的内容	
遊具の安全点検		実施頻度（回／年）		具体的内容	
玩具の安全点検		実施頻度（回／年）		具体的内容	
その他の要因・分析・特記事項					
改善策【必須】					

環境面			
教育・保育等の状況		具体的内容	
その他の要因・分析・特記事項			
改善策【必須】			

人的面			
対象児の動き		具体的内容	
担当職員の動き		具体的内容	
他の職員の動き		具体的内容	
その他の要因・分析・特記事項			
改善策【必須】			

※　データベースに公表される場合、大半部分が公表対象となるため、日付、個人名、病院名等の個人情報は記載しないでください。

データベース掲載に対する保護者の同意【必須】	※　重大事故の情報について、保護者の同意が得られたものをデータベース化し公表しています。 ※　データベースについては、発生した事故に関する情報を収集し、今後の事故防止に資するために作成しているという趣旨を御理解いただき、掲載について保護者の同意を得たときは左欄に○印を付し、同意が得られなかったときは×印を付して、最終報までに必ず保護者に掲載の同意を確認してください。

自治体コメント【必須】 （自治体による事故発生の要因分析等を記載してください。施設・事業者は記載しないでください。）
【記入時に削除ください】 データベースに公表される場合、大半部分が公表対象となるため、日付、個人名、病院名等の個人情報は記載しないでください。

様式2
（表面）

教育・保育施設等事故報告書
（自動車への置き去り事故）

基本情報

報告自治体 （都道府県・市区町村）		施設・事業所名称	
報告回数		施設・事業所所在地	
第1報年月日		施設・事業所代表者等	
続報年月日		施設・事業所設置者等 （社名・法人名・自治体名等）	
施設種別		施設・事業開始年月日 （開設、認可、事業開始等）	
事業種別		認可・認可外の区分	

事故に遭ったこどもの情報

こどもの年齢(月齢) （放課後児童クラブは年齢のみ選択）		こどもの性別	
施設入所年月日 （入園年月日、事業利用開始年月日等）		所属クラス等 （放課後児童クラブはこどもの学年を選択）	

事故発生時の状況

事故発生年月日			送迎の態様				
置き去りしていた時間	～						
事故発生時のこどもの乗車人数		事故発生時の 教育・保育等従事同乗者数 （運転手を含む）		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員・助産師等			
事故発生時のこどもの乗車人数の内訳	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	学童	その他
車種・車名					こどもの最大定員			
日常的に送迎車として運行していたか					安全装置の装備			
安全装置のメーカー・品名					安全装置の認定番号			
安全装置が作動しなかった理由								
事故の転帰								
（死亡の場合）死因								
（負傷等の場合）受傷部位								
（負傷等の場合）負傷状況								
診断名、病状等	診断名							
	病状							
	病院名							
事故の発生状況 （事故発生の要因、点呼等による所在確認の実施状況、安全装置の作動状況、発生後の処置を含めて可能な限り詳細に記載。第1報で可能な範囲で記載し、第2報以降で修正。）								
事故発生後の対応 （報道発表を行う（行った）場合にはその予定（実績）。第2報以降で追記。）								

（裏面）

教育・保育施設等事故報告書
（自動車への置き去り事故）

ソフト面					
事故防止マニュアル		具体的内容			
事故防止に関する研修		実施頻度（回／年）		具体的内容	
その他の要因・分析・特記事項					
改善策【必須】					

ハード面					
安全装置の点検		実施頻度（回／年）		具体的内容	
その他の要因・分析・特記事項					
改善策【必須】					

※　データベースに公表される場合、大半部分が公表対象となるため、日付、個人名、病院名等の個人情報は記載しないでください。

置き去り時の状況図

【記入時に削除ください】
自動車の座席図を示した上で、事故に遭ったこどもの着席位置及び同乗職員の着席位置を図示してください。

データベース掲載に対する保護者の同意【重大事故該当時】	※　死亡、意識不明等の重大事故の情報について、保護者の同意が得られたものをデータベース化し公表しています。 ※　データベースについては、発生した事故に関する情報を収集し、今後の事故防止に資するために作成しているという趣旨を御理解いただき、掲載について保護者の同意を得たときは左欄に○印を付し、同意が得られなかったときは×印を付して、重大事故の場合は最終報までに必ず保護者に掲載の同意を確認してください。

自治体コメント【必須】

（自治体による事故発生の要因分析等を記載してください。施設・事業者は記載しないでください。）

【記入時に削除ください】
データベースに公表される場合、大半部分が公表対象となるため、日付、個人名、病院名等の個人情報は記載しないでください。

【施設・事業所別の報告先】

① 特定教育・保育施設（幼稚園、幼稚園型認定こども園を除く。）、特定地域型保育事業、特定乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度。幼稚園、幼稚園型認定こども園で実施する場合を除く。）、一時預かり事業（幼稚園、幼稚園型認定こども園で実施する場合を除く。）、病児保育事業（幼稚園、幼稚園型認定こども園で実施する場合を除く。）及び認可外保育施設（企業主導型保育施設を含む。）

→ こども家庭庁成育局保育政策課（認可外保育施設担当室指導係）（hoiku.safety-report@cfa.go.jp）

② 幼稚園、幼稚園型認定こども園

→ 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室学校安全係（anzen@mext.go.jp）

→ 文部科学省初等中等教育局幼児教育課（youji@mext.go.jp ）

③ 特別支援学校幼稚部

→ 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室学校安全係（anzen@mext.go.jp）

→ 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（toku-sidou@mext.go.jp）

④ 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

→ こども家庭庁成育局成育環境課健全育成係（seiikukankyou.kenzen@cfa.go.jp）

⑤ 子育て短期支援事業（ショートステイ、トワイライトステイ）、子育て世帯訪問支援事業及び児童育成支援拠点事業

→ こども家庭庁成育局成育環境課家庭支援係（seiikukankyou.katei@cfa.go.jp）

⑥ 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）

→ こども家庭庁成育局成育環境課子育て支援係（seiikukankyou.kosodate@cfa.go.jp）

【全施設・事業所共通の報告先】

→ 消費者庁消費者安全課（i.syouhisya.anzen@caa.go.jp）

※　【施設・事業所別の報告先】及び【全施設・事業所共通の報告先】ともに報告をお願いします。

様式３

※1　カラーのセルは、プルダウンより選択してください。
※2　PDFに変換してから「事故電子申請フォーム」に添付してください。
※3　電子申請した後に提出する場合は、電子申請の「受付番号」を忘れずに記載してください。

※受付番号：

事故の経過報告書	第１報	報告日	令和７年　　月　　日	報告者
園コード：		所在区	施設名：	
事故発生日：	令和７年　　月　　日		診断名：	
園児氏名：		クラス	満年齢	性別：

日・時間	事故発生の経過と対応（事故発生時の状況が分かる状況図や写真）
	事故発生時の園児数　　歳児　　人　　職員数　　人

日・時間	事故発生の経過と対応（事故発生時の状況が分かる状況図や写真）

事故状況記録用紙

様式4

※園内・園外において①死亡事故②重篤な事故（意識不明、人工呼吸器をつける、ICUに入る等）が発生した場合、事故に関わった・見た（事故の前後を含む）全ての職員が、速やかに事実を記録する。
※下記の【記録・提出する際の注意事項】をよく読み、記入すること。

＜記入日時＞　　年　　月　　日（　　）　午前・午後　　時　　分

＜記入者＞　名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＜職種＞園長・副園長・主任・保育士・保育教諭・保育補助・看護師・栄養士・調理員・事務員・その他（　　）

◆事故発生前　※自分のいた場所・他の職員がいた場所・見た事・聞こえた事・言われた事・自分の行動・言った事等

時　分

時　分

時　分

時　分

（時刻が分かる場合記入）

◆事故発生時　※自分のいた場所・他の職員がいた場所・見た事・聞こえた事・言われた事・自分の行動・言った事等

時　分

時　分

時　分

時　分

時　分

時　分

（時刻が分かる場合記入）

◆事故発生後　※自分のいた場所・他の職員がいた場所・見た事・聞こえた事・言われた事・自分の行動・言った事等

時　分

時　分

時　分

時　分

（時刻が分かる場合記入）

◆その他参考になること

【記録・提出する際の留意事項】
①ボールペンなどの、修正できない筆記用具で、手書きで記録する。間違った場合は、二重線で消し、加筆して修正する。
②他の職員と相談せず、一人ひとりが個別に記録する。
③書き終わったものを他の職員に見せない。他の職員が書いたものを見ない。書いた内容について話をしない。
④書き終わったものは、園長またはそれに代わる責任者に提出する。
⑤集約した記録用紙は、コピーを取って園に保管すると共に、「原本」を各区指導保育士宛に至急提出する。

「教育・保育施設、認可外保育施設等における事故防止及び対応マニュアル～施設編」P17[①事故の記録]参照

様式５

危機事象発生状況報告書

年　　月　　日　　時　　分現在

標　　題		（第１報）
発生日時		年　　月　　日（　　）　午前・午後　　時　　分
発生場所		
危機事象発生の概要		
被害の状況	人的被害	死傷者　［ 有 ・ 無 ・ 不明 ］（ ○ 囲み） 約＿＿＿＿＿名　　そのうち死者＿＿＿＿＿名
	物的被害	［ 有 ・ 無 ・ 不明 ］（ ○ 囲み）
	その他	
対応の状況		
その他の特記事項		

発信者	氏　名	
	所　属	
	連絡先	

受信者	受信日時	年　　月　　日（　　）　午前・午後　　時　　分
	氏　名	
	所　属	
	処理事項	

※　事象覚知後直ちに分かる範囲で記載し報告してください。

記入要領

○　第１報の基本は迅速性です。まずは報告してください。
○　記入は知りうる範囲で結構です。また、内容は部外秘扱いとしますので、必要以上に神経質となり報告が遅れることのないようお願いします。
○　第１報以降の情報については、現場の状況、対応状況等について、逐次、報告してください。

○　各項目の記入

項目	記入内容
標題	・　（第　報）に報告書が第何報であるかを記入してください。 ・　タイトルとして、事件・事故等を簡潔に表現してください。
発生日時	・　事件・事故等の発生日時を記入してください。
発生場所	・　事件・事故等の発生場所を記入してください。 ・　詳しい住所等が判明していない場合は、付近や名称情報でも構いません。 【例：新潟駅構内、○○病院付近、○○小学校付近　】
危機事象の発生の概要	・　何がどうなったのか、事件・事故等の原因（理由）、今後の被害拡大の予測等分かる範囲で記入してください。
人的被害	・　死者や負傷者がいるかいないか、また多数なのか、知りうる範囲で記入してください。
物的被害	・　物的被害があるかどうか、知りうる範囲で記入してください。 【例：一般住宅被害 10 棟、公共施設(施設名)被害、水道管の破壊　】
その他	・　ライフラインへの影響など市民生活への影響があるかどうか、知りうる範囲で記入してください。 【例：約 100 世帯断水、約 50 世帯一時避難　】
対応の状況	・　対応の状況、今後の被害拡大の予測、他機関の活動等、分かる範囲で記入してください。
その他の特記事項	・　特に留意する点、対応の今後の予定など自由に記入してください。
発信者	・　氏名、所属、連絡先（以降の連絡が可能なところ）を記入してください。
受信者	・　危機管理防災課の記入欄ですので記入する必要はありません。